

高槻市市民意識調査報告書

〔環境、市立消費生活センター、市政全般について〕

平成 23 年度

高槻市

目次

I 調査概要

- 1. 調査目的…………… 7
- 2. 調査項目…………… 7
- 3. 調査方法・有効回答数…………… 7

II 調査結果

- 1. 回答者の属性…………… 11
- 2. 環境について…………… 16
- 3. 市立消費生活センターについて…………… 56
- 4. 市政全般について…………… 80

III 資料

- 質問画面…………… 88

I . 調查概要

I. 調査概要

1. 調査目的

市民生活と市政の直面する重要課題等をテーマとして選び、これに対する市民の潜在的な声を的確に把握し、施策や事業の決定ならびに行政運営の基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 環境について
- (2) 市立消費生活センターについて
- (3) 市政全般について

3. 調査方法・有効回答数

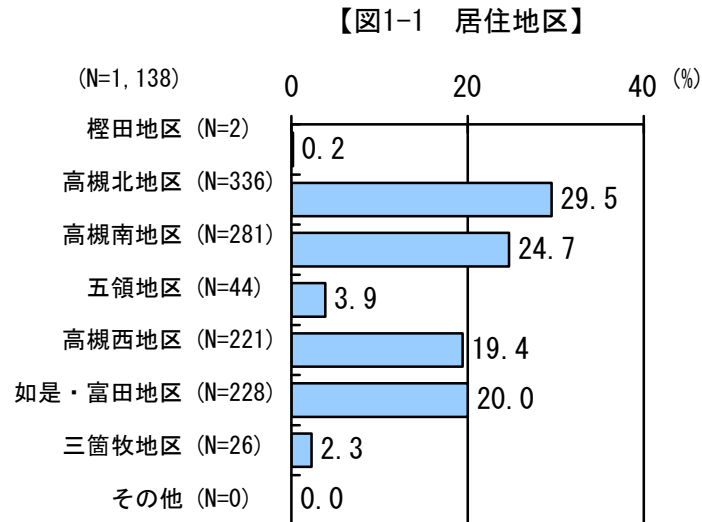
- (1) 調査地域 高槻市全域
- (2) 調査対象 民間調査会社にインターネットモニター会員として登録している市内在住の20歳以上の男女個人
- (3) 調査方法 インターネット調査
モニター登録会員のうち市内在住者を対象に性別・年代別構成に考慮しながら、有効回答数1,000人を超えるまで各層のモニターに順次配信し回答を求めた。
- (4) 有効回答者数 1,138人
- (5) 調査期間 平成23年6月24日～平成23年6月28日

II. 調查結果

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の属性

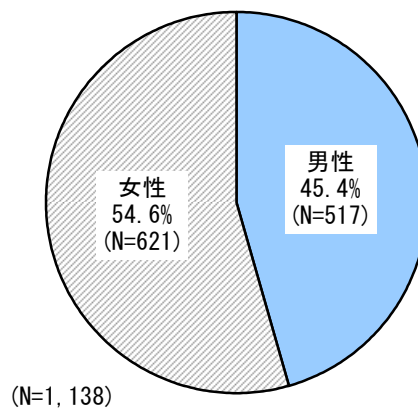
(1) 居住地区



居住地区をみると、「高槻北地区」が 29.5%と最も高く、次いで「高槻南地区」が 24.7%、「如是・富田地区」が 20.0%、「高槻西地区」が 19.4%と続いている。(図 1-1)

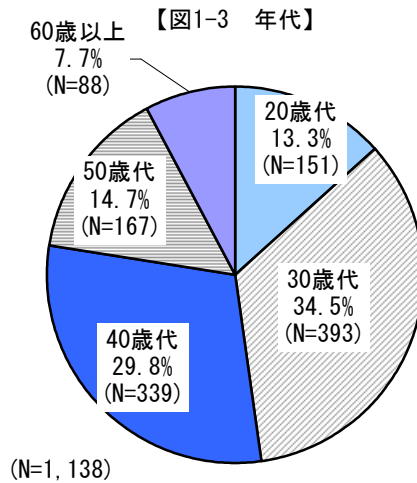
(2) 性別

【図1-2 性別】



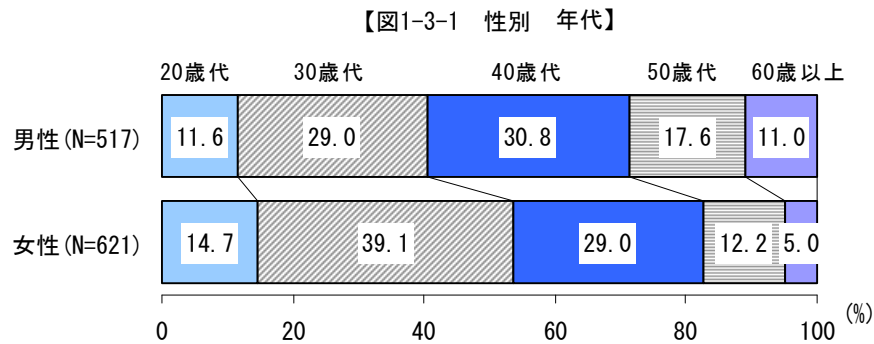
性別をみると、「男性」が 45.4%に対し「女性」が 54.6%で、女性の割合が高くなっている。(図 1-2)

(3) 年代

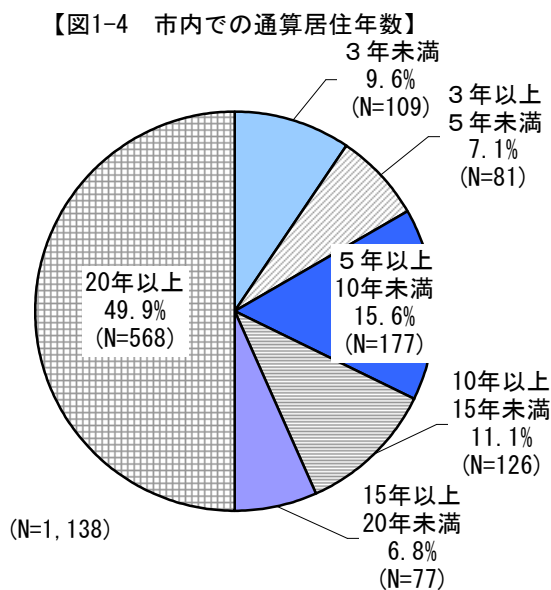


年代をみると、「30歳代」が34.5%で最も高く、次いで「40歳代」が29.8%、「50歳代」が14.7%と続いている。(図1-3)

年代を性別にみると、男性は女性に比べ40歳代以上の割合が高い(男性/59.4%、女性/46.2%)。一方、女性は男性に比べ30歳代以下の割合が高い(男性/40.6%、女性/53.8%)。(図1-3-1)



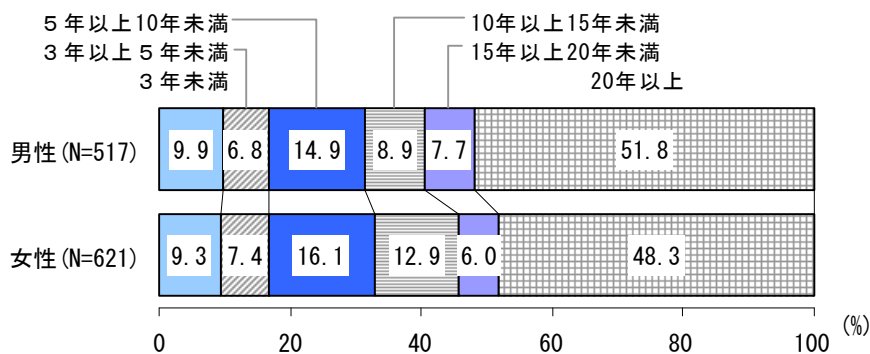
(4) 市内での通算居住年数



市内での通算居住年数をみると、「20年以上」が49.9%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が15.6%、「10年以上15年未満」が11.1%と続いている。(図1-4)

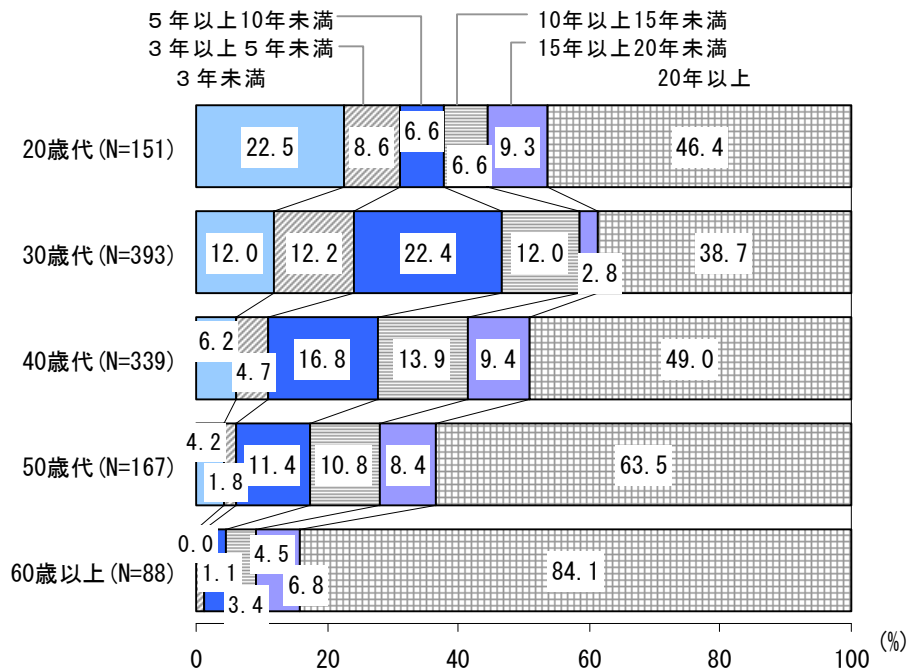
市内での通算居住年数を性別にみると、男女とも「20年以上」が5割前後を占めている(男性/51.8%、女性/48.3%)。(図1-4-1)

【図1-4-1 性別 市内での通算居住年数】



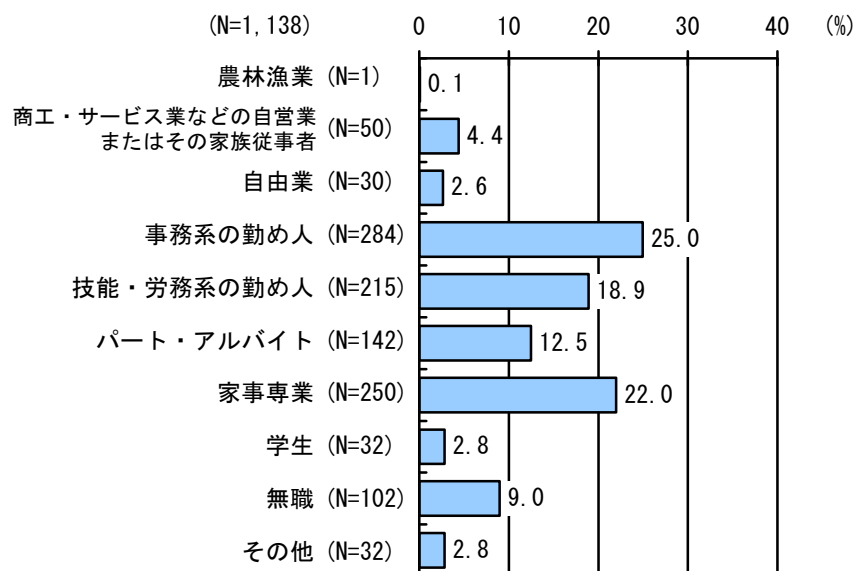
市内での通算居住年数を年代別にみると、各年代で「20年以上」の割合が高く、特に60歳以上(84.1%)、50歳代(63.5%)では過半数を占めている。(図1-4-2)

【図1-4-2 年代別 市内での通算居住年数】



(5) 職業

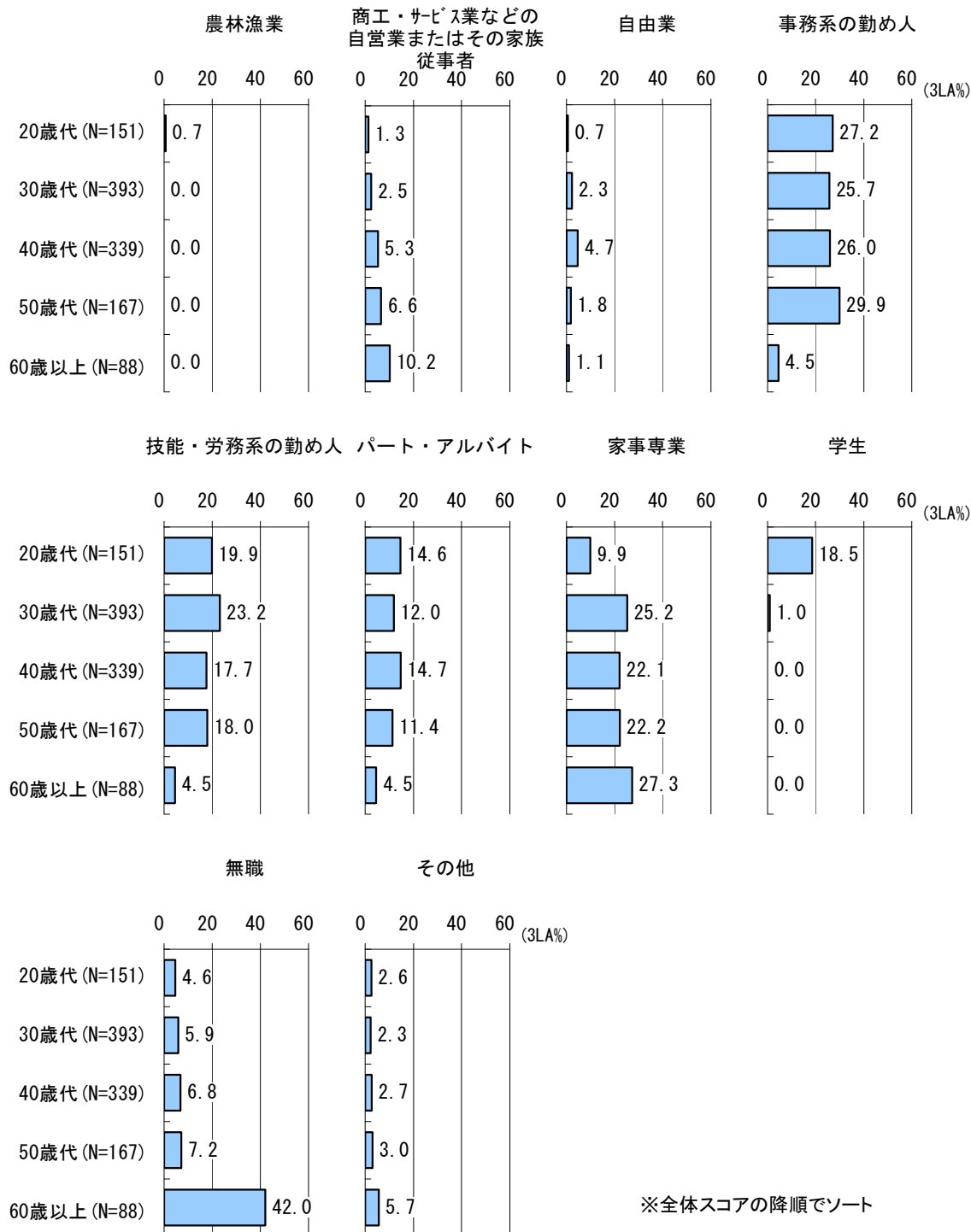
【図1-5 職業】



職業をみると、「事務系の勤め人」が25.0%で最も高く、次いで「家事専業」が22.0%、「技能・労務系の勤め人」が18.9%と続いている。(図1-5)

職業を年代別にみると、20歳代から50歳代では「事務系の勤め人」の割合が高く(20歳代/27.2%、30歳代/25.7%、40歳代/26.0%、50歳代/29.9%)、60歳以上では「無職」(42.0%)の割合高い。(図1-5-1)

【図1-5-1 年代別 職業】

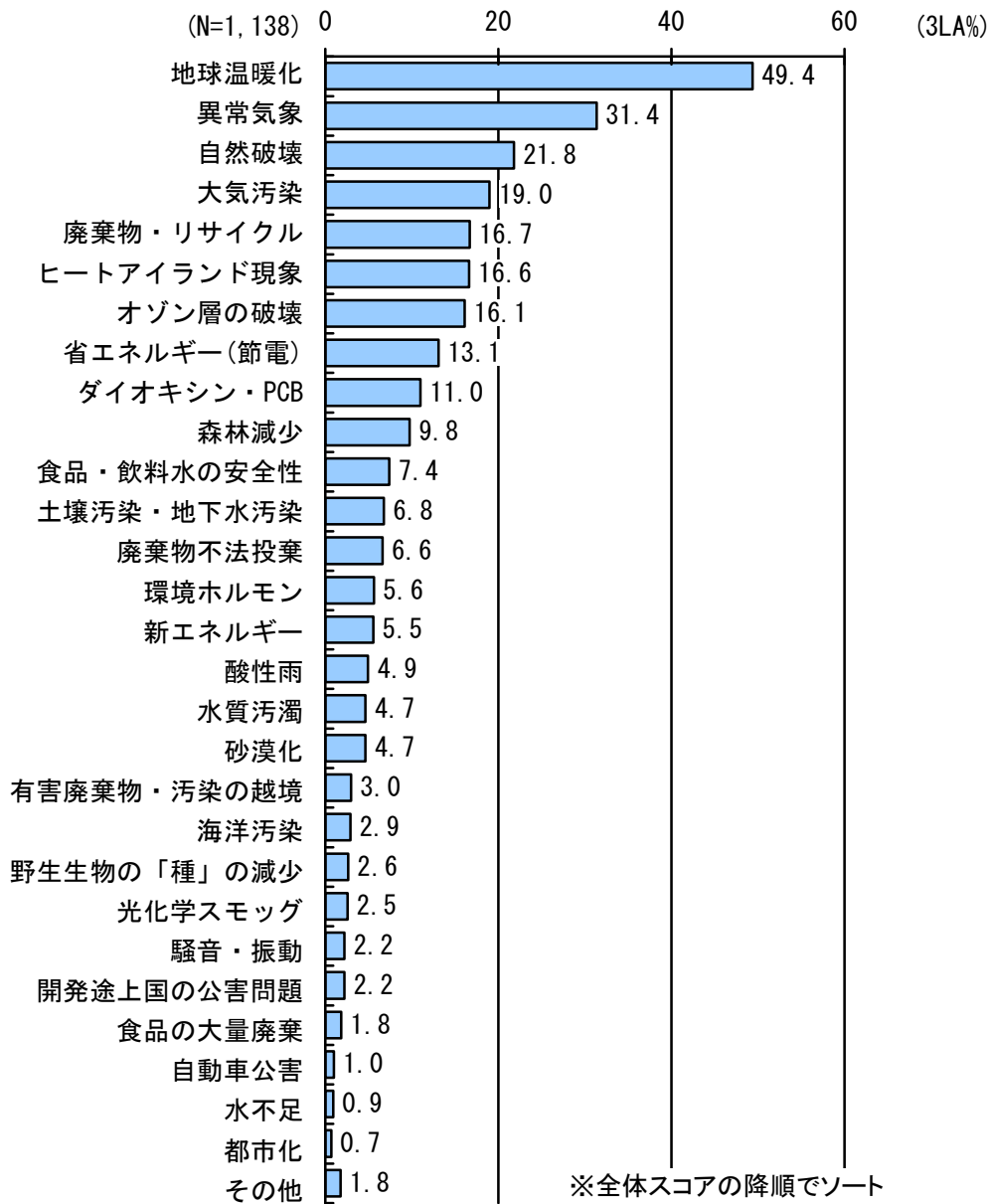


2. 環境について

(1) 環境問題のイメージ

問4 最近、環境問題が新聞やテレビなどでよく報道されていますが、あなたは環境問題といえば何をイメージされますか。

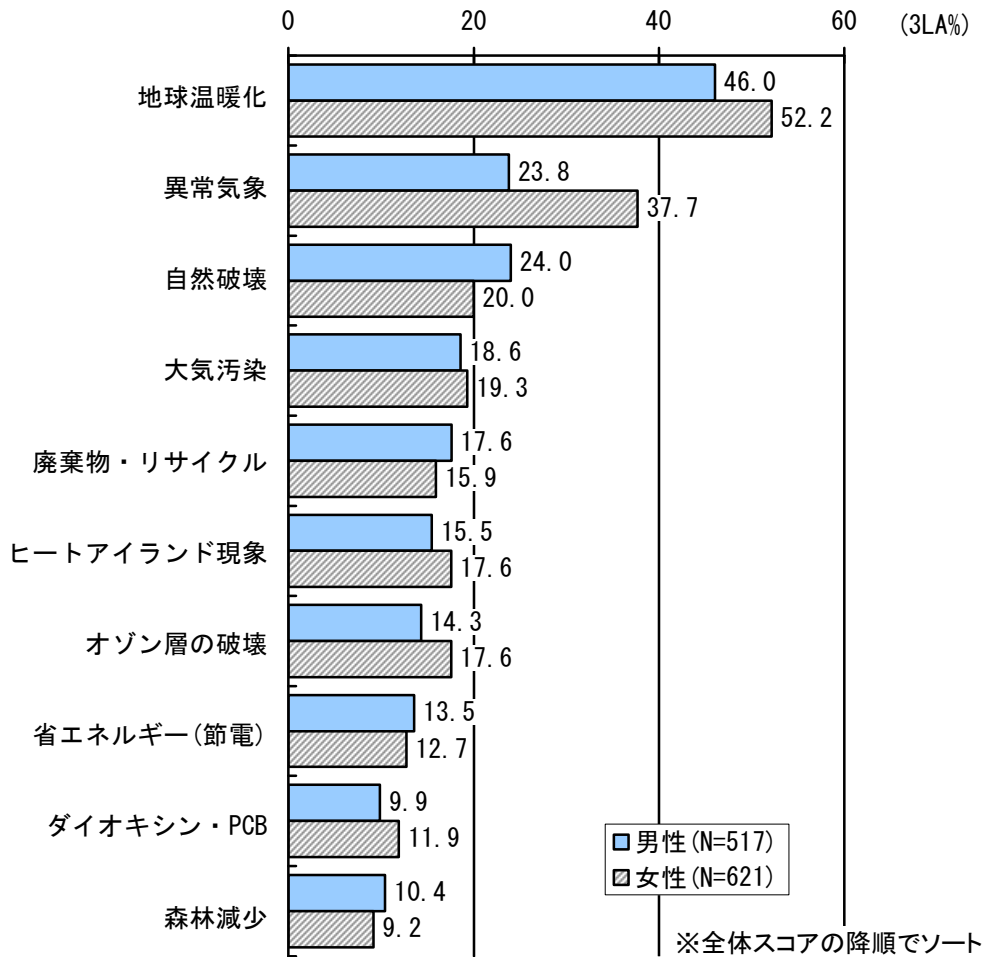
【図2-1 環境問題のイメージ】



環境問題のイメージをみると、「地球温暖化」が49.4%で最も高く、次いで「異常気象」が31.4%、「自然破壊」が21.8%、「大気汚染」が19.0%と続いている。(図2-1)

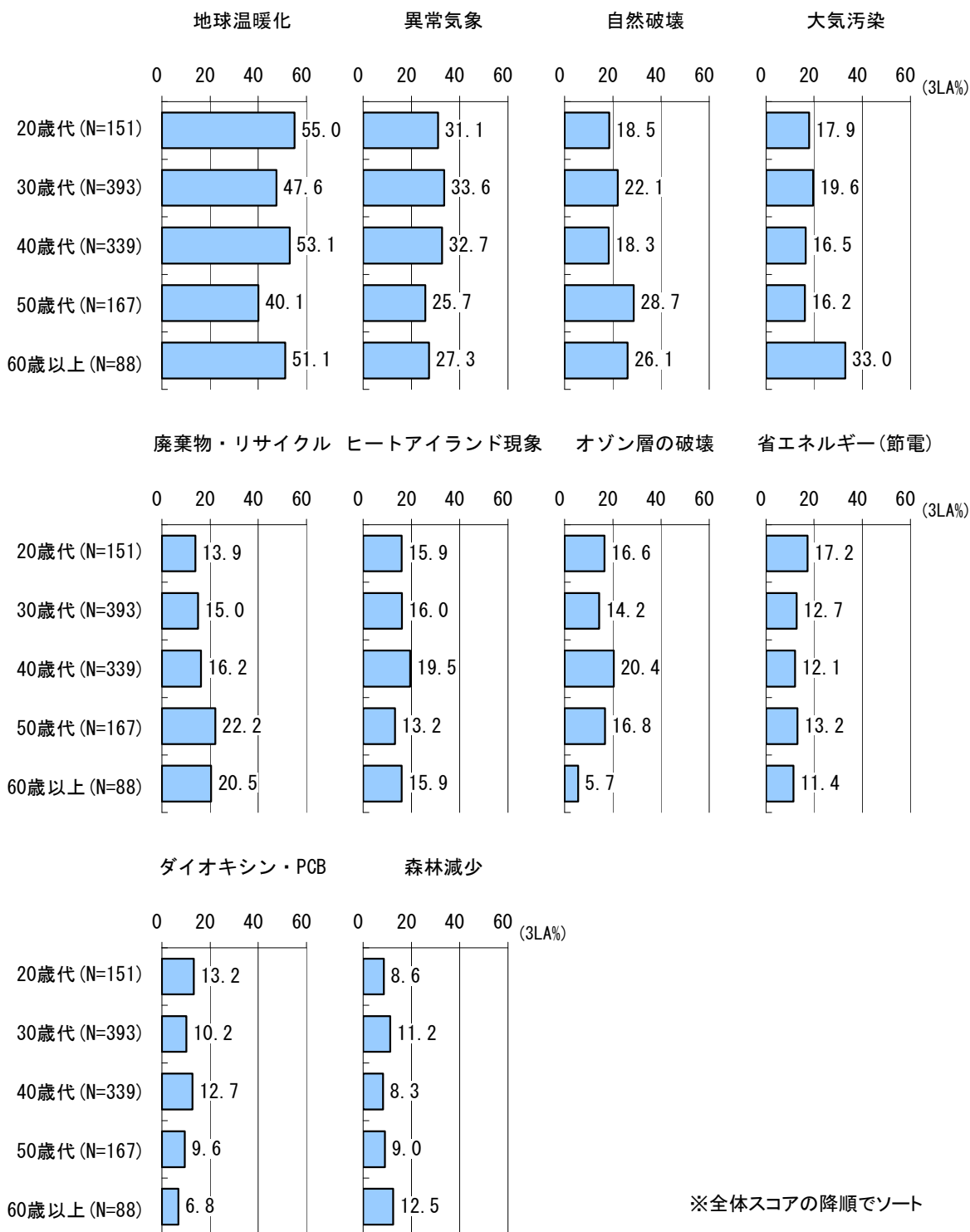
環境問題のイメージについて、性別で上位 10 項目をみると、男女とも「地球温暖化」の割合が最も高い(男性/46.0%、女性/52.2%)。また、「異常気象」の割合は女性が 37.7%に対して男性が 23.8%で、女性の割合が高くなっている。(図 2-1-1)

【図2-1-1 性別 環境問題のイメージ (上位10項目)】



環境問題のイメージについて、年代別で上位 10 項目をみると、いずれの年代も「地球温暖化」の割合が最も高く、特に 20 歳代 (55.0%)、40 歳代 (53.1%)、60 歳以上 (51.1%) では半数を超えている。「地球温暖化」に次いで割合が高いのは、20 歳代から 40 歳代までは「異常気象」(20 歳代/31.1%、30 歳代/33.6%、40 歳代/32.7%)、50 歳代では「自然破壊」(28.7%)、60 歳以上では「大気汚染」(33.0%) となっている。(図 2-1-2)

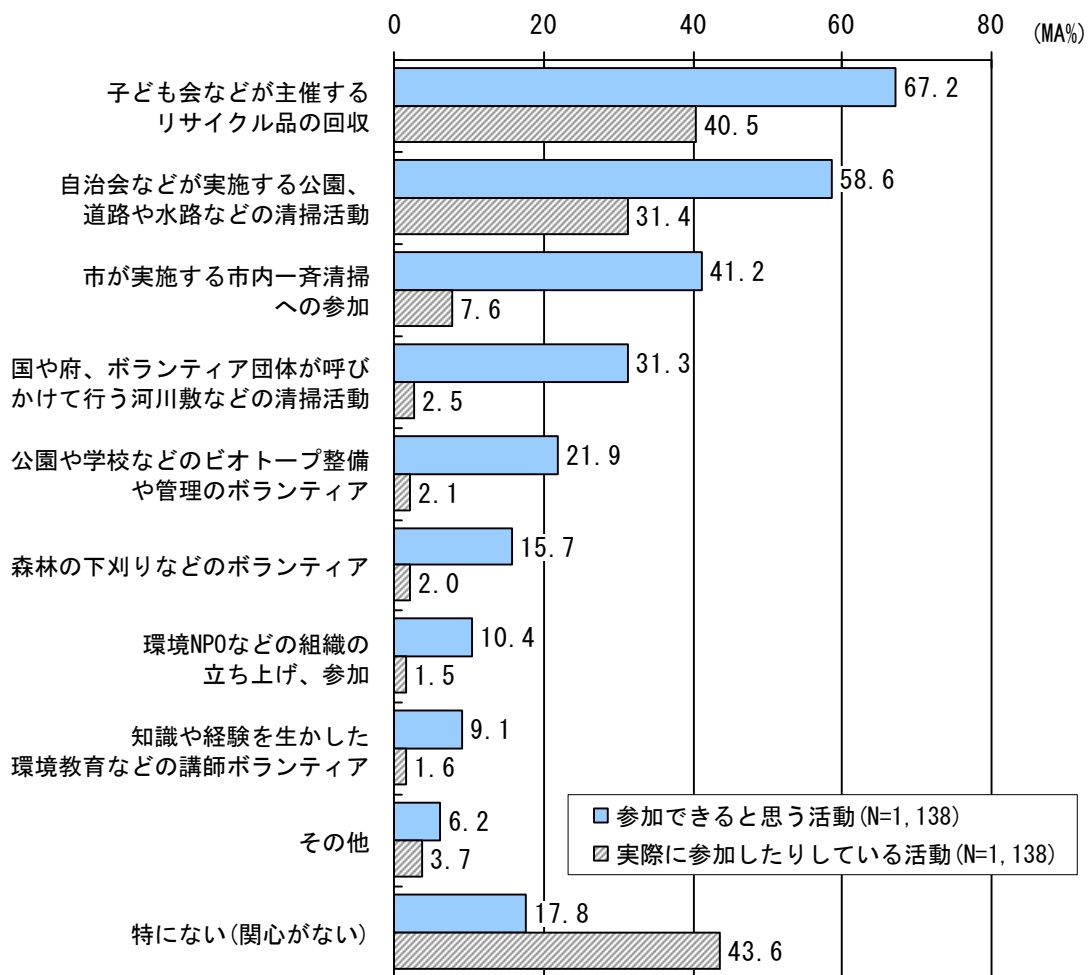
【図2-1-2 年代別 環境問題のイメージ (上位10項目)】



(2) 環境保全に関する活動について

問5 環境保全に関する活動について、あなたが、
 (1) 参加できると思う活動 また、
 (2) 実際に行ったり参加したりしている活動
 を選んでください。

【図2-2 環境保全に関する活動について】



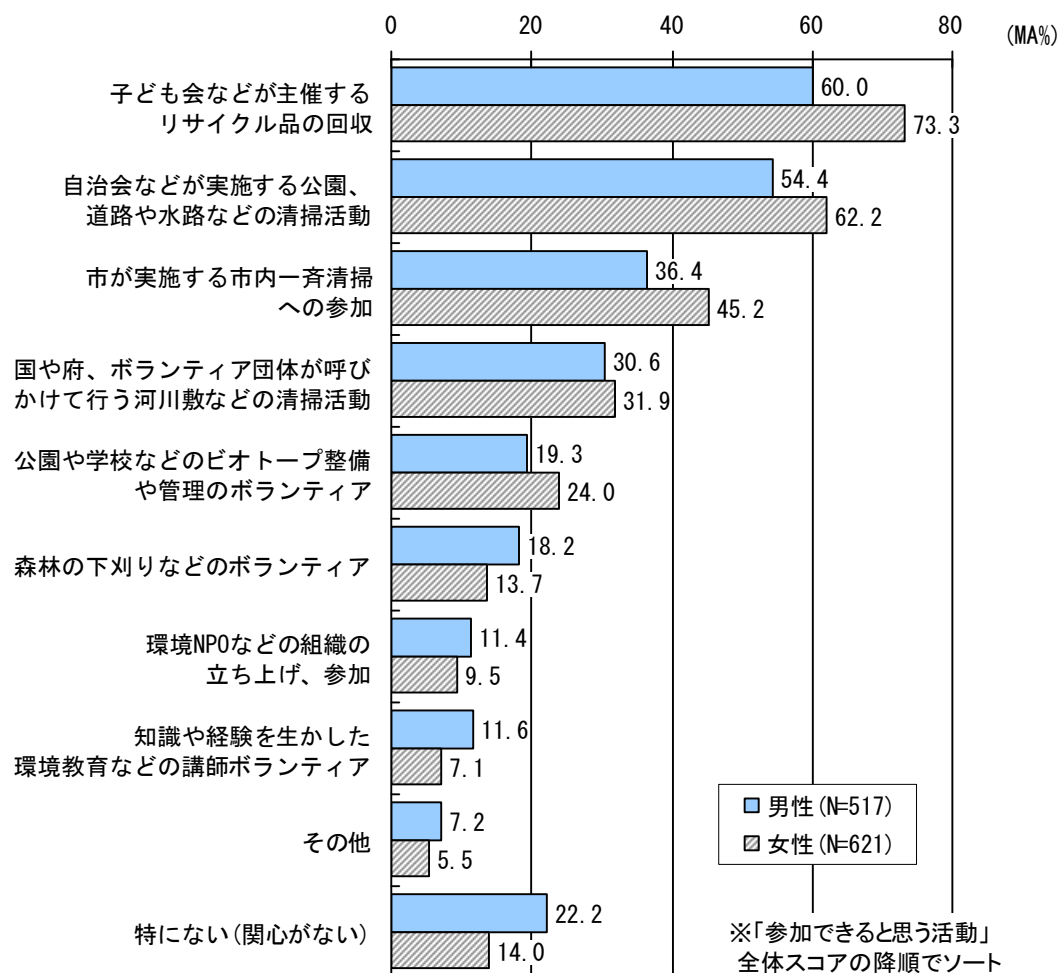
※「参加できると思う活動」全体スコアの降順でソート

環境保全に関する活動について『参加できると思う活動』をみると、「子ども会などが主催するリサイクル品の回収」が67.2%で最も高く、次いで「自治会などが実施する公園、道路や水路などの清掃活動」が58.6%、「市が実施する市内一斉清掃への参加」が41.2%と続いている。

『実際に行ったり参加したりしている活動』では「特にない(関心がない)」が43.6%で最も高く、次いで「子ども会などが主催するリサイクル品の回収」が40.5%、「自治会などが実施する公園、道路や水路などの清掃活動」が31.4%と続いており、以降の活動は1割に満たない割合となっている。『参加できると思う活動』があっても、なかなか実行につながっていないことが読み取れる。(図2-2)

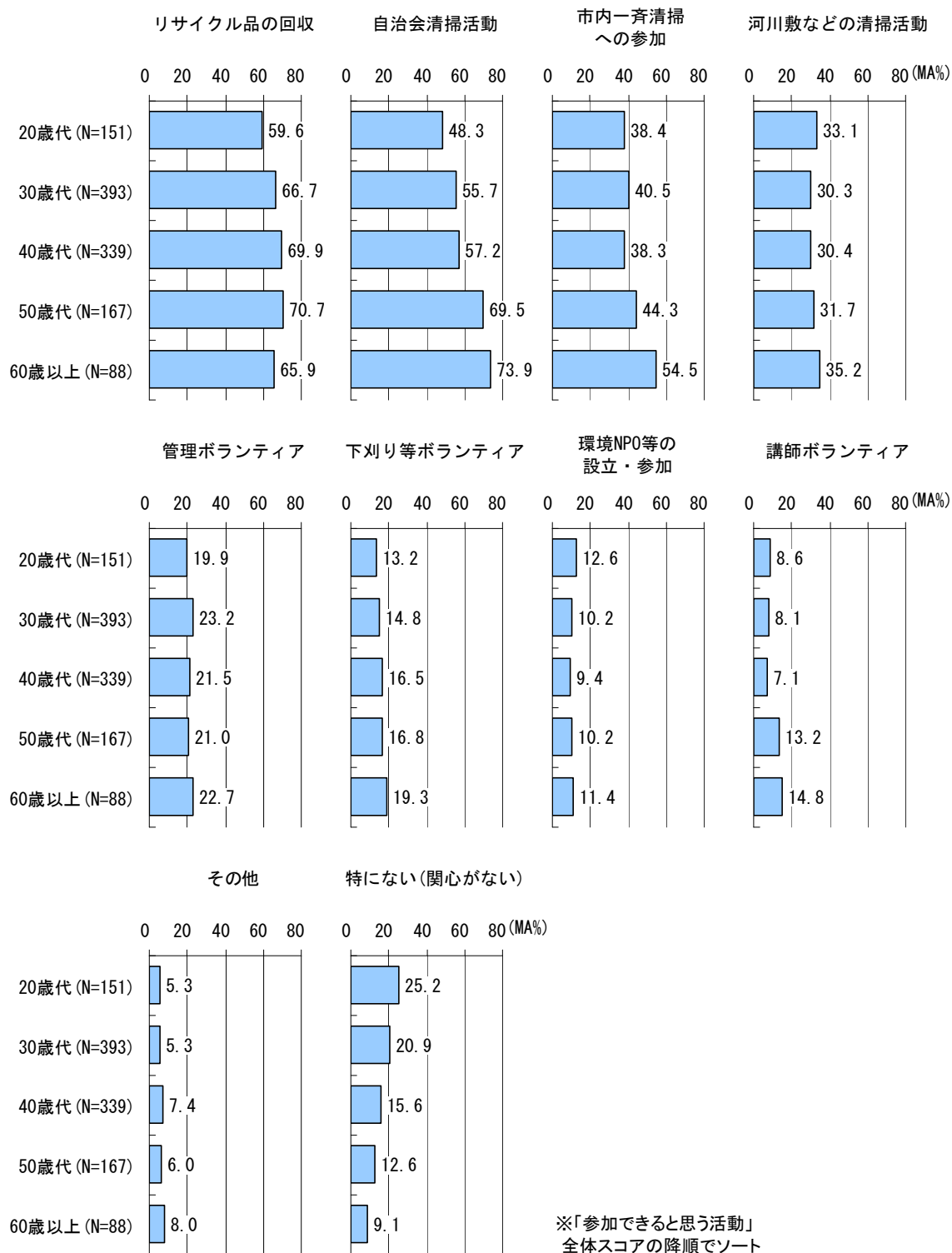
環境保全に関する活動について『参加できると思う活動』を性別にみると、上位5項目において女性の割合が男性を上回っており、特に「子ども会などが主催するリサイクル品の回収」(男性/60.0%、女性/73.3%)、「自治会などが実施する公園、道路や水路などの清掃活動」(男性/54.4%、女性/62.2%)、「市が実施する市内一斉清掃への参加」(男性/36.4%、女性/45.2%)など上位の活動で顕著となっている。(図2-2-1)

【図2-2-1 性別 環境保全に関する活動について：参加できると思う活動】



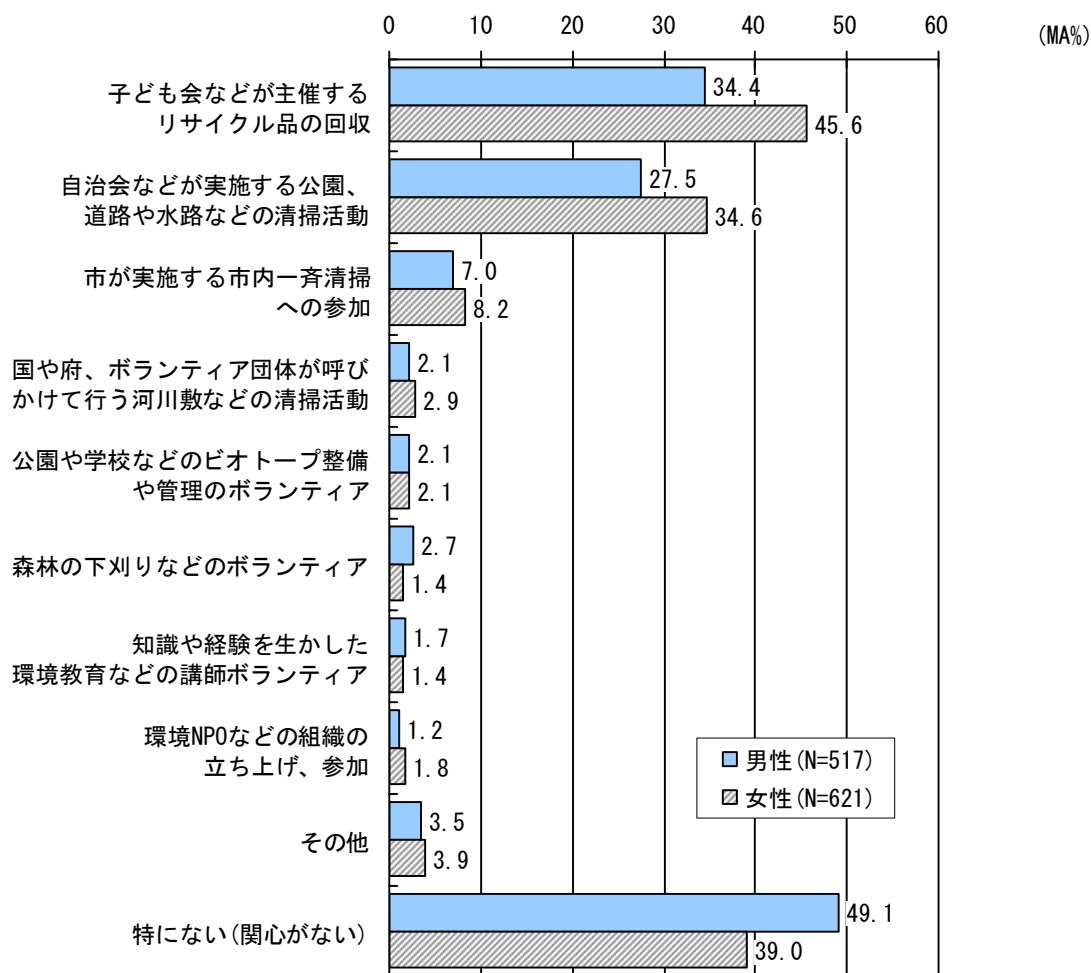
環境保全に関する活動について『参加できると思う活動』を年代別にみると、「自治会清掃活動」「市内一斉清掃への参加」などは高年代ほど割合が高い傾向となっており、特に50歳代と60歳以上で割合が高くなっている。20歳代は他の年代と比べて関心が低い傾向がみられ、「特にない(関心がない)」では25.2%と他の年代よりも割合が高くなっている。(図2-2-2)

【図2-2-2 年代別 環境保全に関する活動について：参加できると思う活動】



環境保全に関する活動について『実際に参加したりしている活動』を性別にみると、男性では「特にない（関心がない）」が49.1%で最も高く、次いで「子ども会などが主催するリサイクル品の回収」が34.4%、「自治会などが実施する公園、道路や水路などの清掃活動」が27.5%と続いている。女性では「子ども会などが主催するリサイクル品の回収」が45.6%で最も高く、次いで「特にない（関心がない）」が39.0%、「自治会などが実施する公園、道路や水路などの清掃活動」が34.6%と続いている。（図2-2-3）

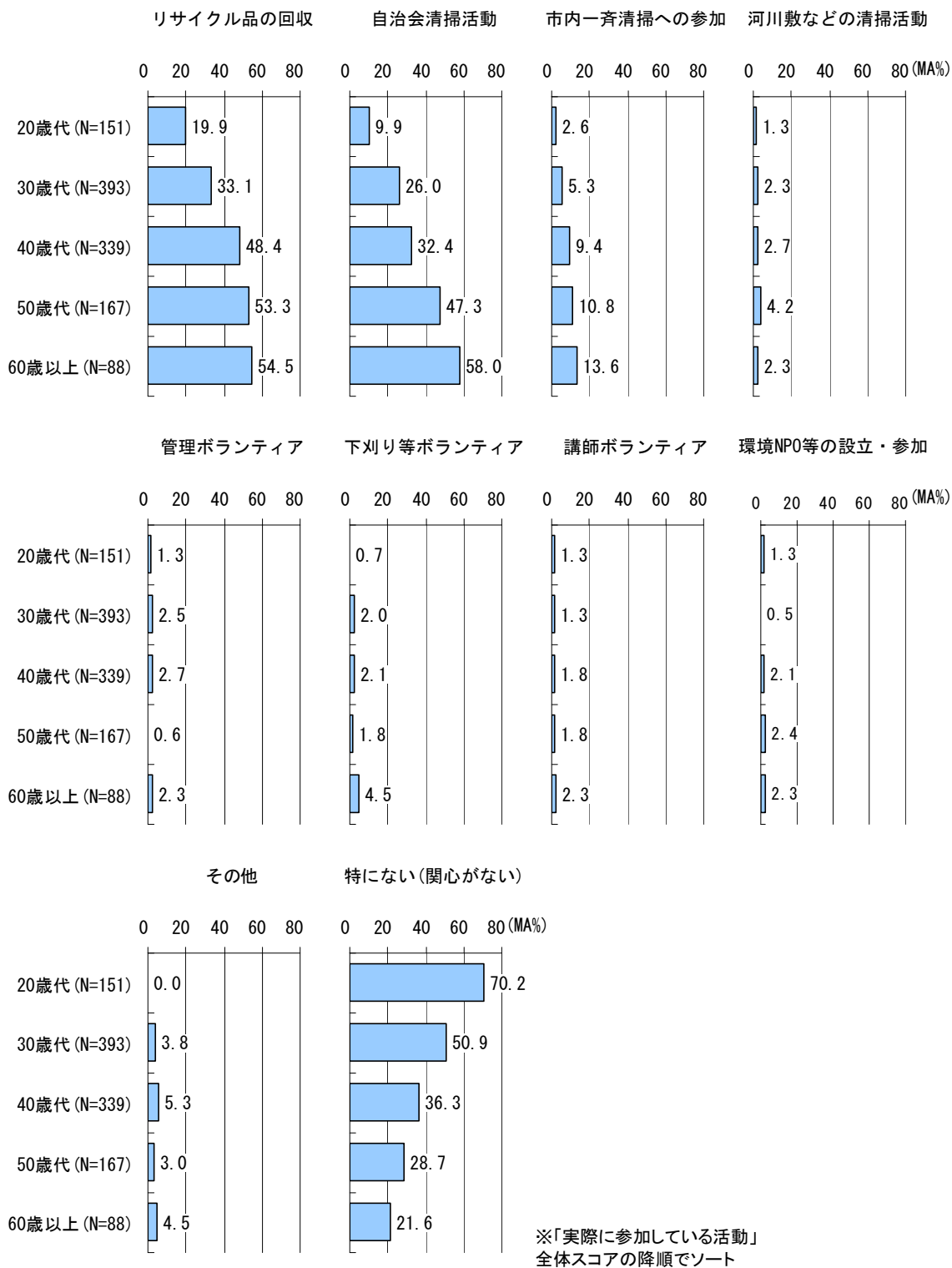
【図2-2-3 性別 環境保全に関する活動について：実際に参加したりしている活動】



※「実際に参加している活動」全体スコアの降順でソート

環境保全に関する活動について『実際に参加したりしている活動』を年代別にみると、「リサイクル品の回収」「自治会清掃活動」「市内一斉清掃への参加」などは高年代ほど割合が高い傾向がみられる。一方で、「特にない（関心がない）」では低年代ほど割合が高く、20歳代では7割を超える。(図2-2-4)

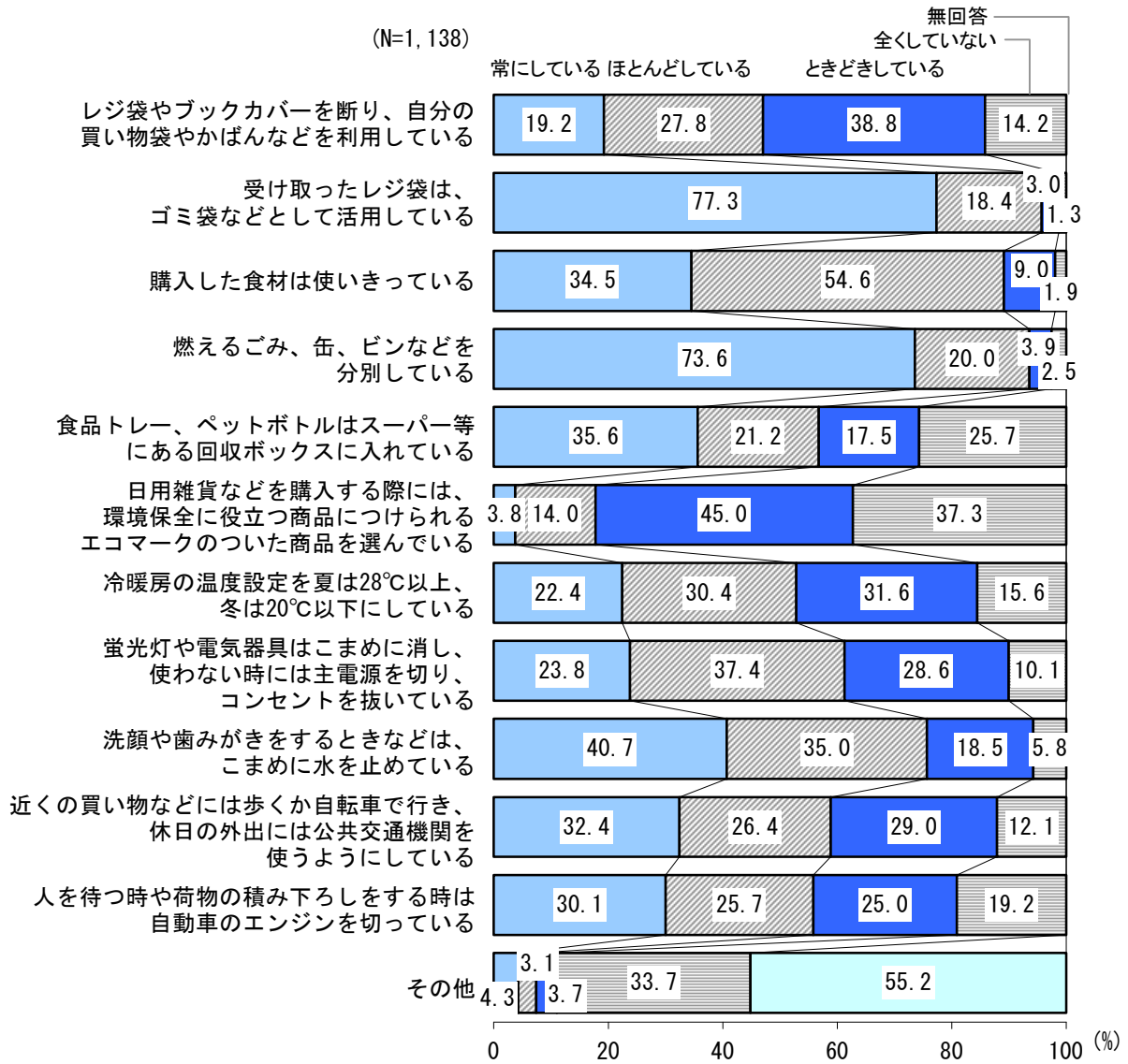
【図2-2-4 年代別 環境保全に関する活動について：実際に参加したりしている活動】



(3) 日常生活の環境保全の取り組み状況

問6 毎日の暮らしの中でちょっとした工夫で環境保全に貢献することができます。次の項目について、あなたの日常生活での取り組み状況をお答えください。

【図2-3 日常生活の環境保全の取り組み状況】

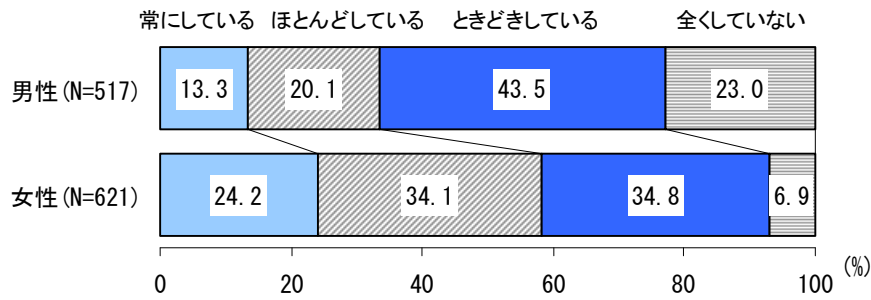


日常生活の環境保全の取り組み状況を見ると、「常にしている」の割合は、『受け取ったレジ袋は、ゴミ袋などとして活用している』（77.3%）と『燃えるごみ、缶、ビンなどを分別している』（73.6%）がともに7割以上と高くなっている。

「ほとんどしている」の割合は、『購入した食材は使い切っている』が54.6%と高く、「ときどきしている」「全くしていない」の割合は、『日用雑貨などを購入する際にエコマークのついた商品を選ぶ』においてそれぞれ45.0%、37.3%と高くなっている。（図2-3）

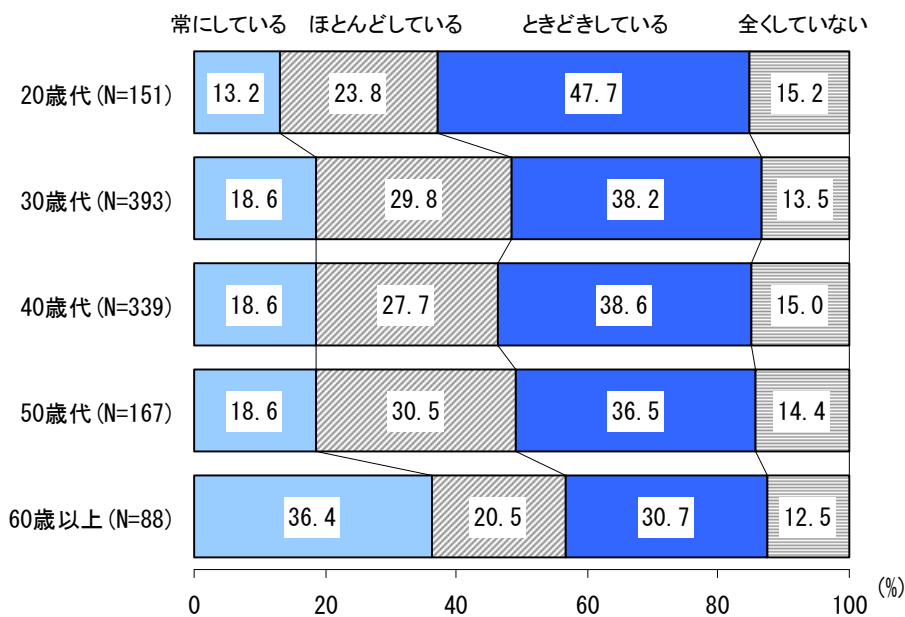
『自分の買い物袋やかばんなどの利用』について性別にみると、男性では8割弱、女性では9割以上が自分の買い物袋やかばんなどを利用している。実施頻度は、男性に比べ女性のほうが多く、「常にしている」と「ほとんどしている」では女性が男性の割合をそれぞれ10ポイント以上上回っている。(図2-3-1)

【図2-3-1 性別 自分の買い物袋やかばんなどを利用】

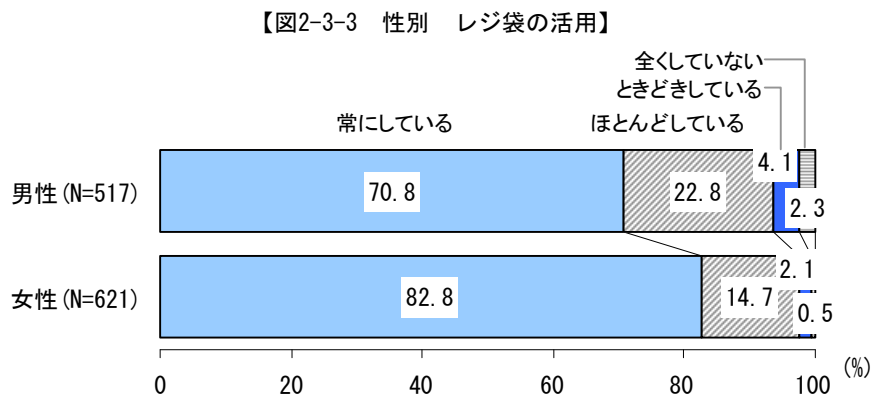


『自分の買い物袋やかばんの利用』について年代別にみると、使用頻度に差はあるものの、自分の買い物袋やかばんを利用している人は、どの年代でも8割を越えている。年代が高いほど実施頻度が高くなっており、「常にしている」の割合は60歳以上が36.4%と最も高くなっている。一方、「ときどきしている」の割合は20歳代が47.7%と高い。(図2-3-2)

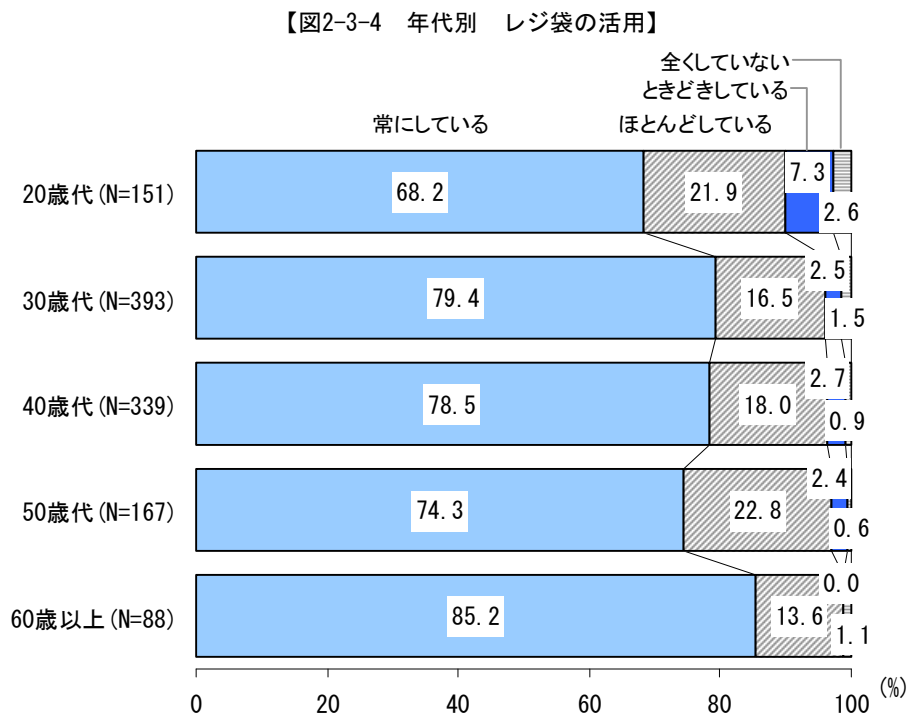
【図2-3-2 年代別 自分の買い物袋やかばんなどを利用】



『レジ袋の活用』について性別にみると、活用している割合は男女とも 9 割台を占めている。「常にしている」割合は、男性（70.8%）に比べ女性（82.8%）のほうが 12 ポイント上回っている。（図 2-3-3）

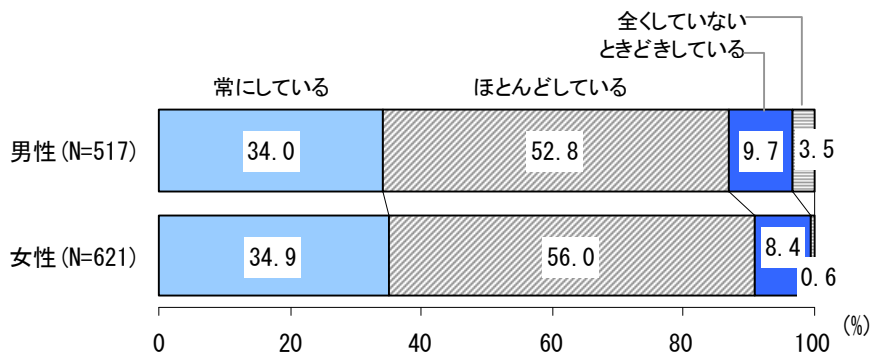


『レジ袋の活用』について年代別にみると、「常にしている」の割合は 60 歳以上が 8 割を超えて最も高く、次いで 30 歳代から 50 歳代が 7 割台、20 歳代が 6 割台の順となっている。（図 2-3-4）



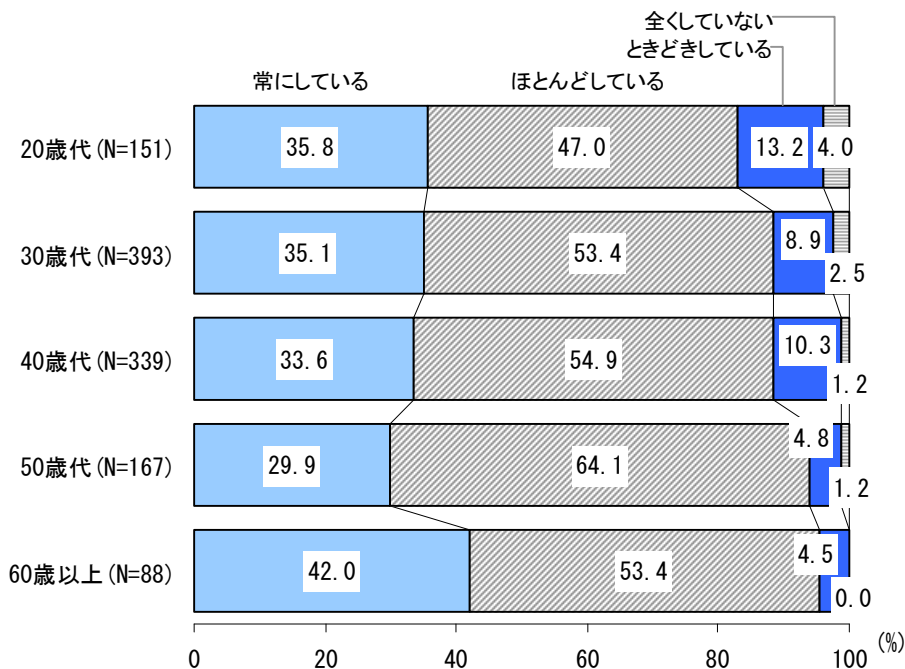
『購入した食材を使い切る』について性別にみると、男女とも9割以上が購入した食材を使いきっている。実施頻度をみると、男女とも「常にしている」が3割台、「ほとんどしている」が5割台、「ときどきしている」が1割弱となっており顕著な差はみられない。(図2-3-5)

【図2-3-5 性別 購入した食材を使いきる】

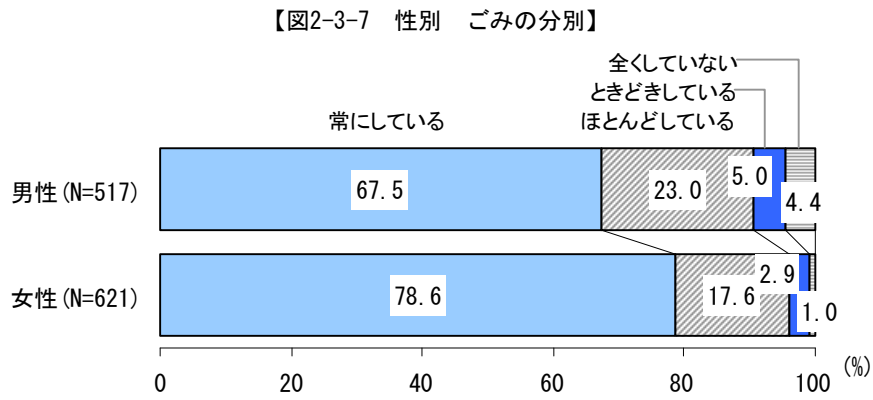


『購入した食材を使い切る』について年代別にみると、「常にしている」の割合は60歳以上が42.0%で他の年代よりも高くなっている。「ほとんどしている」の割合は50歳代が64.1%と高く、「ときどきしている」の割合は20歳代が13.2%と高くなっている。(図2-3-6)

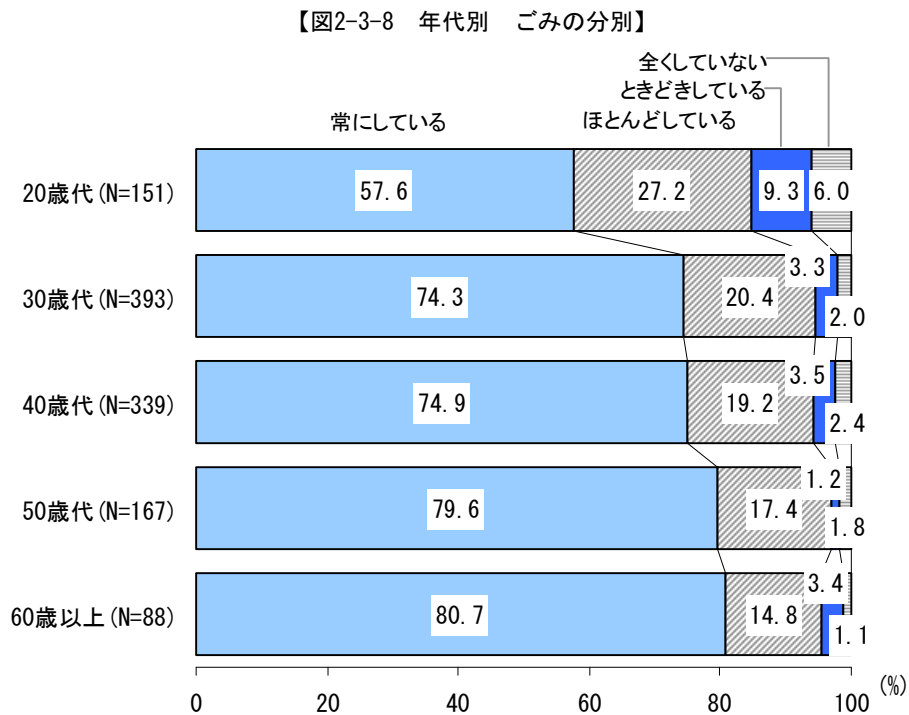
【図2-3-6 年代別 購入した食材を使いきる】



『ごみの分別』について性別にみると、男女とも「常にしている」の割合が高く、男性（67.5%）に比べ女性（78.6%）のほうが11.1ポイント上回っている。（図2-3-7）

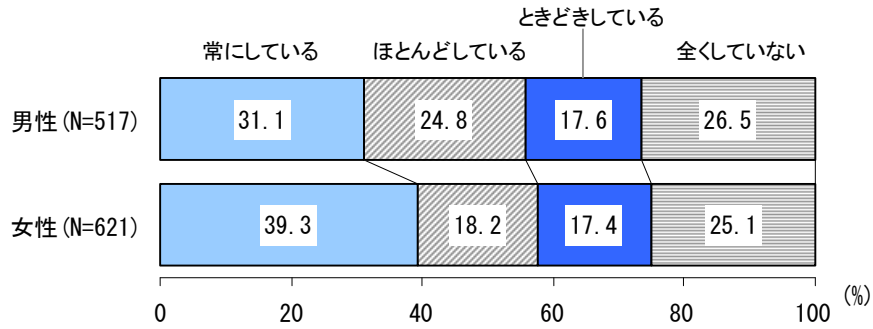


『ごみの分別』について年代別にみると、年代が上がるにつれて「常にしている」の割合が高くなっており、30歳代から50歳代では7割台、60歳以上では8割を超えている。（図2-3-8）



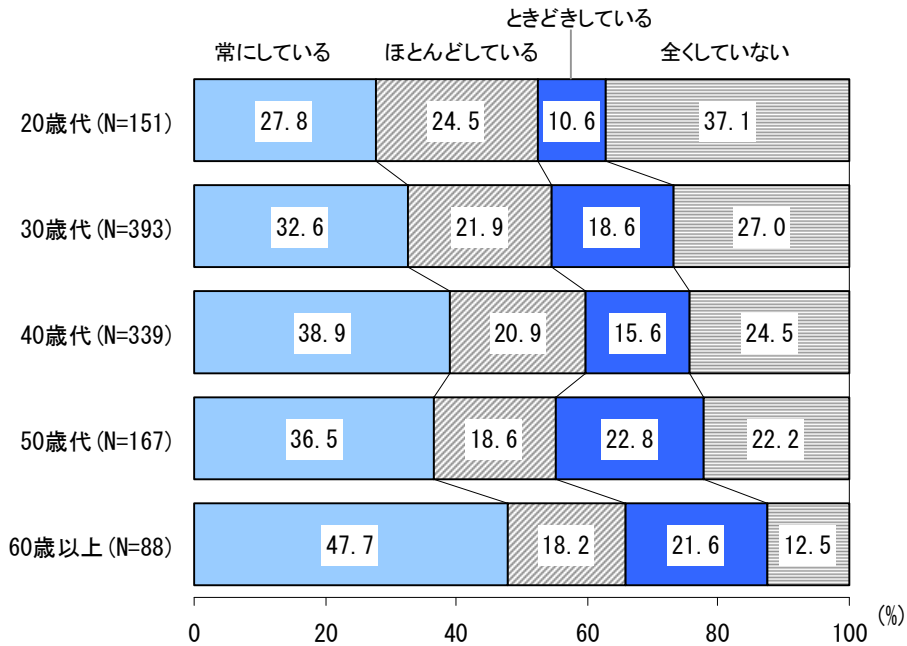
『回収ボックスの利用』について性別にみると、男女とも「常にしている」の割合が高く、男性(31.1%)に比べ女性(39.3%)のほうが8.2ポイント上回っている。一方、「全くしていない」の割合は男女とも2割台となっている。(図2-3-9)

【図2-3-9 性別 回収ボックスの利用】

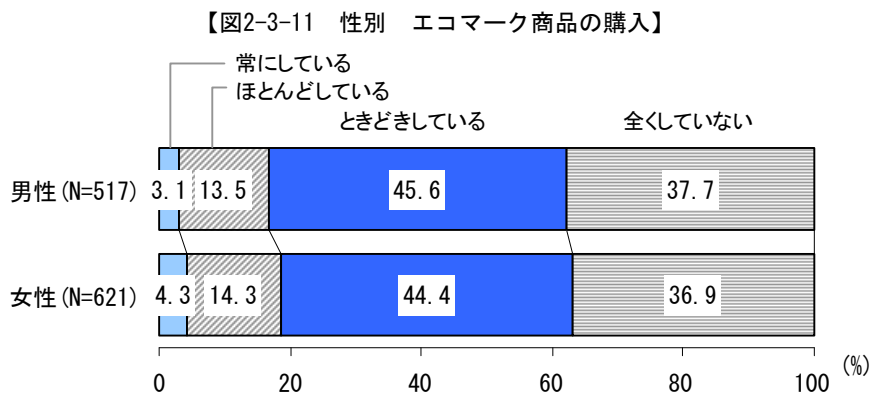


『回収ボックスの利用』について年代別にみると、年代が上がるにつれて回収ボックスの利用の割合と実施頻度が高くなっており、60歳以上では「常にしている」が47.7%と高い。一方、20歳代では「全くしていない」が37.1%と他の年代と比べて高くなっている。(図2-3-10)

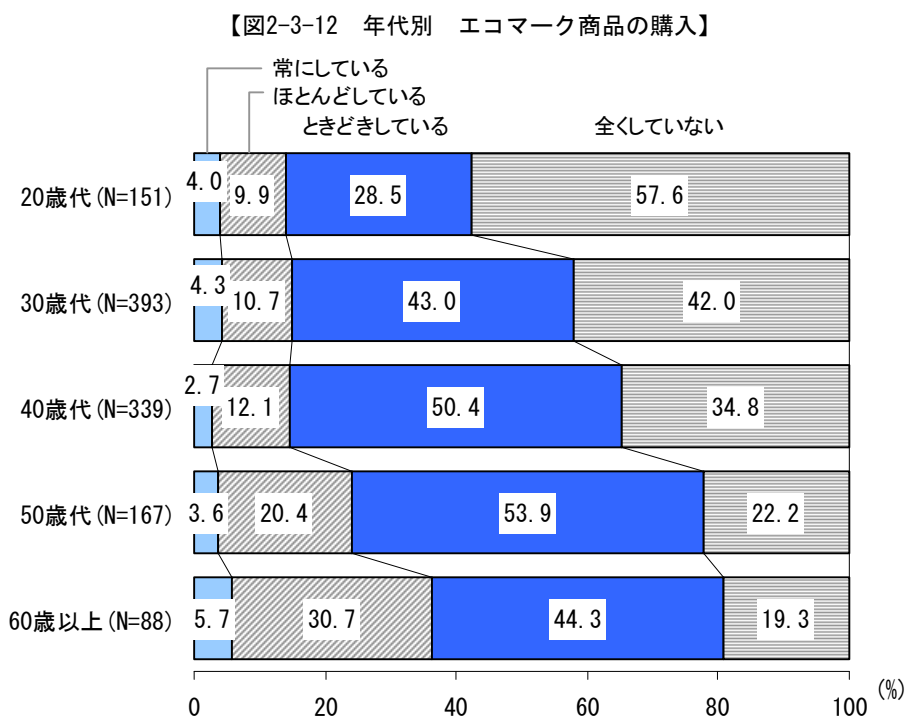
【図2-3-10 年代別 回収ボックスの利用】



『エコマーク商品の購入』について性別にみると、男女とも「ときどきしている」の割合が4割台と高い（男性／45.6%、女性／44.4%）。一方で、「全くしていない」の割合が3割台を占めている（男性／37.7%、女性／36.9%）。(図 2-3-11)

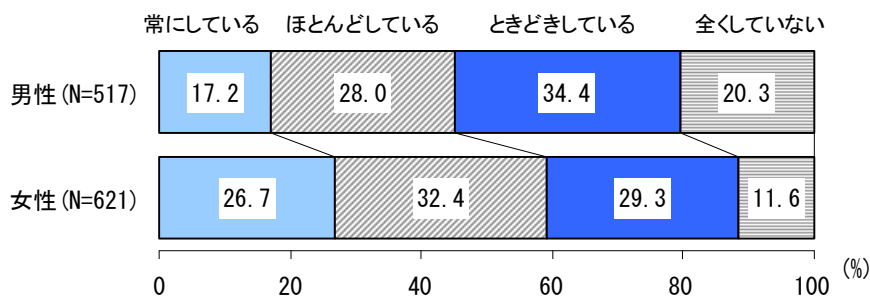


『エコマーク商品の購入』について年代別にみると、年代が高くなるにつれて「ほとんどしている」の割合が高くなっている。一方、「全くしていない」の割合は、年代が低くなるにつれて高くなっており、20歳代では5割以上を占めている。(図 2-3-12)



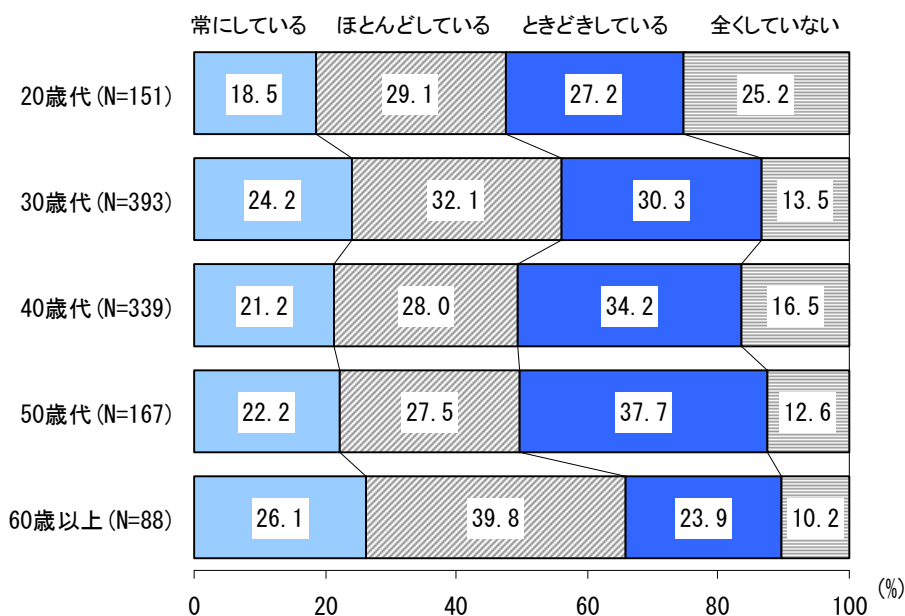
『冷暖房の温度設定』について性別にみると、「常にしている」と「ほとんどしている」の割合は男性に比べ女性のほうが上回っている。「全くしていない」の割合は男性（20.3%）が女性（11.6%）を上回っている。（図 2-3-13）

【図2-3-13 性別 冷暖房の温度設定】



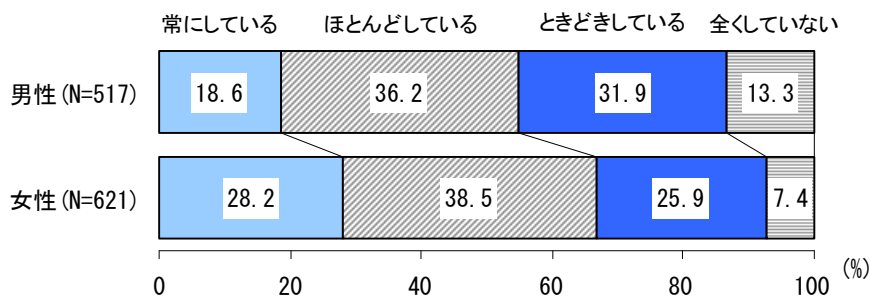
『冷暖房の温度設定』について年代別にみると、60歳以上では「常にしている」が26.1%、「ほとんどしている」が39.8%と、合わせた合計が6割以上となっており他の年代と比べて高くなっている。一方、「全くしていない」の割合は、20歳代が2割台と他の年代よりも高くなっている。（図 2-3-14）

【図2-3-14 年代別 冷暖房の温度設定】



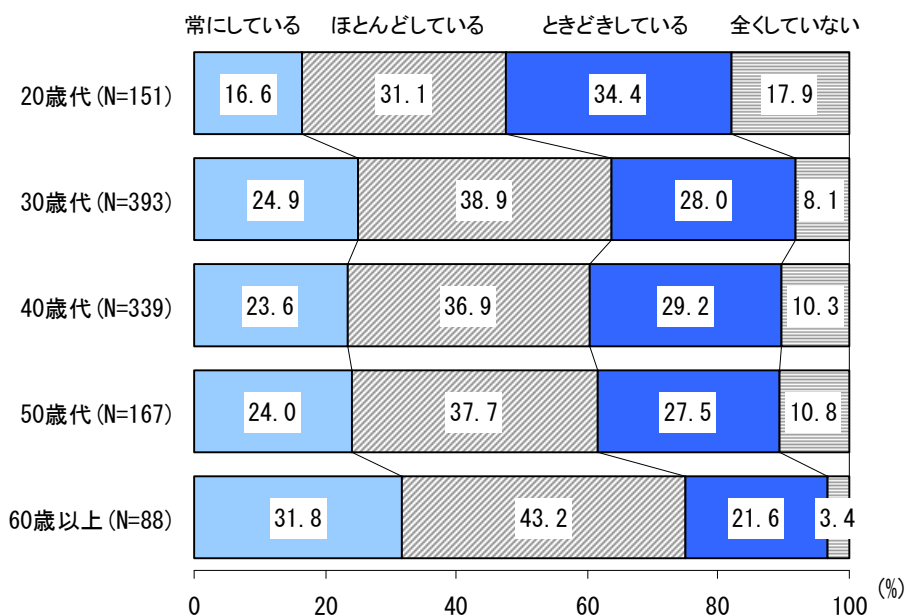
『節電』について性別にみると、「常にしている」の割合は男性（18.6%）に比べ女性（28.2%）のほうが9.6ポイント上回っている。また、「全くしていない」の割合は、女性（7.4%）に比べ男性（13.3%）のほうが5.9ポイント上回っている。（図2-3-15）

【図2-3-15 性別 節電】

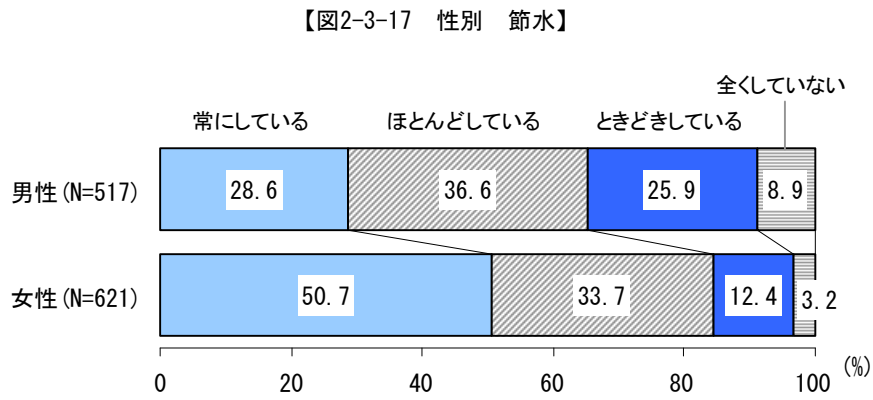


『節電』について年代別にみると、「常にしている」の割合は高年代ほど高い傾向がみられ、20歳代で1割台、30歳代から50歳代で2割台、60歳以上で3割台となっている。また、「全くしていない」の割合は、20歳代で17.9%と高くなっている。（図2-3-16）

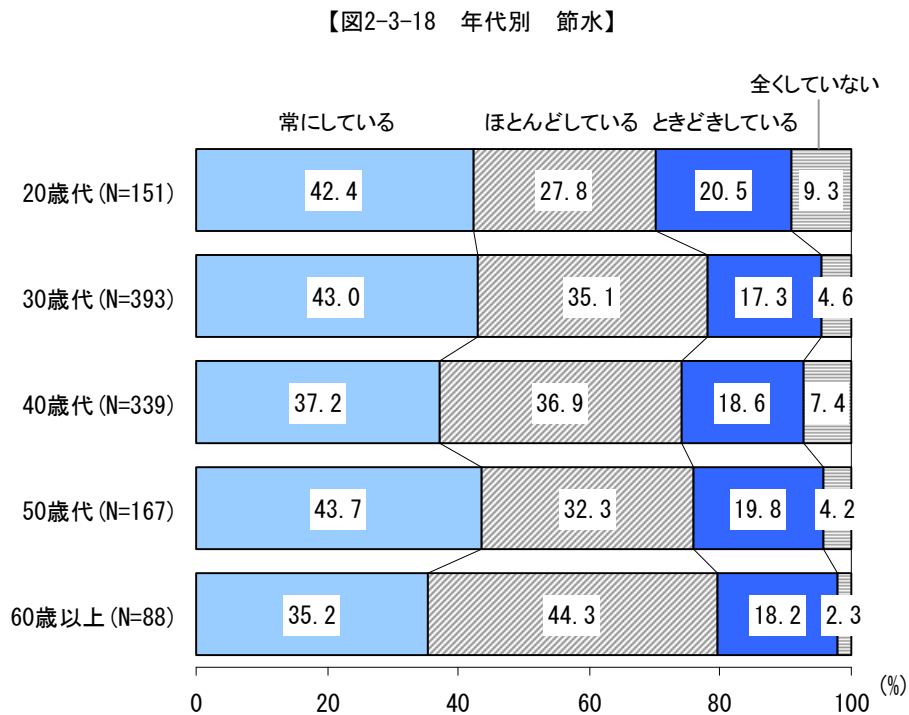
【図2-3-16 年代別 節電】



『節水』について性別にみると、「常にしている」の割合は女性 50.7%に対し、男性が 28.6%で、女性の実行割合が高くなっている。(図 2-3-17)

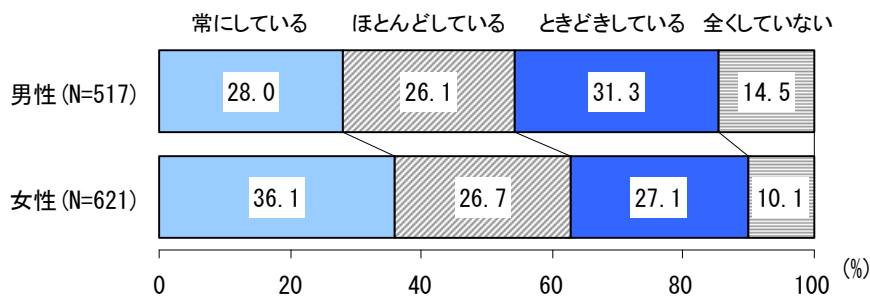


『節水』について年代別にみると、いずれの年代も 9 割以上が節水を実行している。「常にしている」の割合は、20 歳代から 30 歳代および 50 歳代では 4 割を超える。(図 2-3-18)



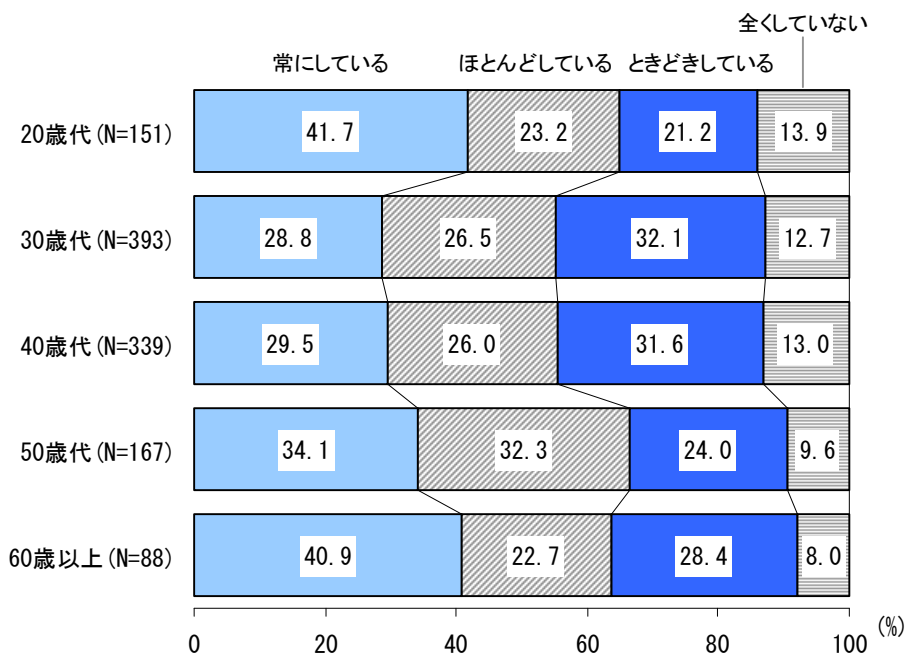
『公共交通機関の利用』について性別にみると、「常に行っている」の割合は、男性（28.0%）に比べ女性（36.1%）のほうが8.1ポイント上回っている。（図 2-3-19）

【図2-3-19 性別 公共交通機関の利用】



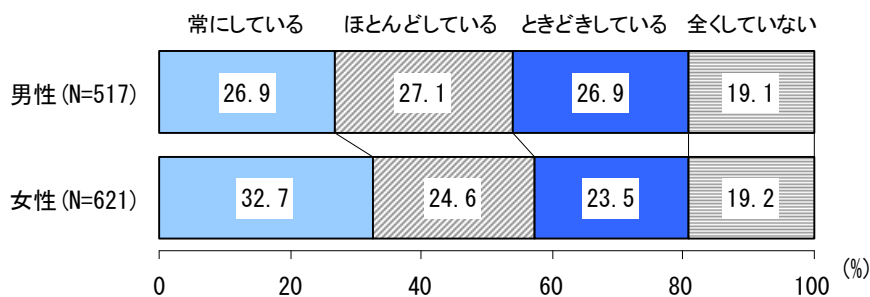
『公共交通機関の利用』について年代別にみると、「常に行っている」の割合は、20歳代（41.7%）と60歳以上（40.9%）が4割を超えて高くなっている。（図 2-3-20）

【図2-3-20 年代別 公共交通機関の利用】



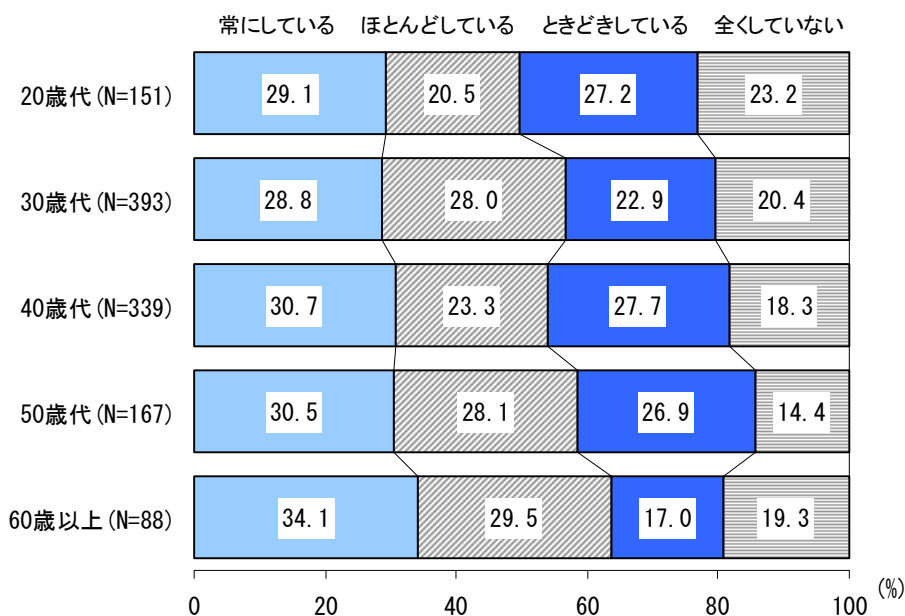
『停車中のエンジン停止』について性別にみると、「常にしている」の割合は、男性（26.9%）に比べ女性（32.7%）のほうが5.8ポイント上回っている。「全くしていない」の割合は男女とも約2割となっている。（図2-3-21）

【図2-3-21 性別 停車中のエンジン停止】



『停車中のエンジン停止』について年代別にみると、「常にしている」の割合はいずれの年代も3割前後となっている。一方、「全くしていない」の割合は、20歳代が23.2%で最も高く、50歳代が14.4%で最も低い。（図2-3-22）

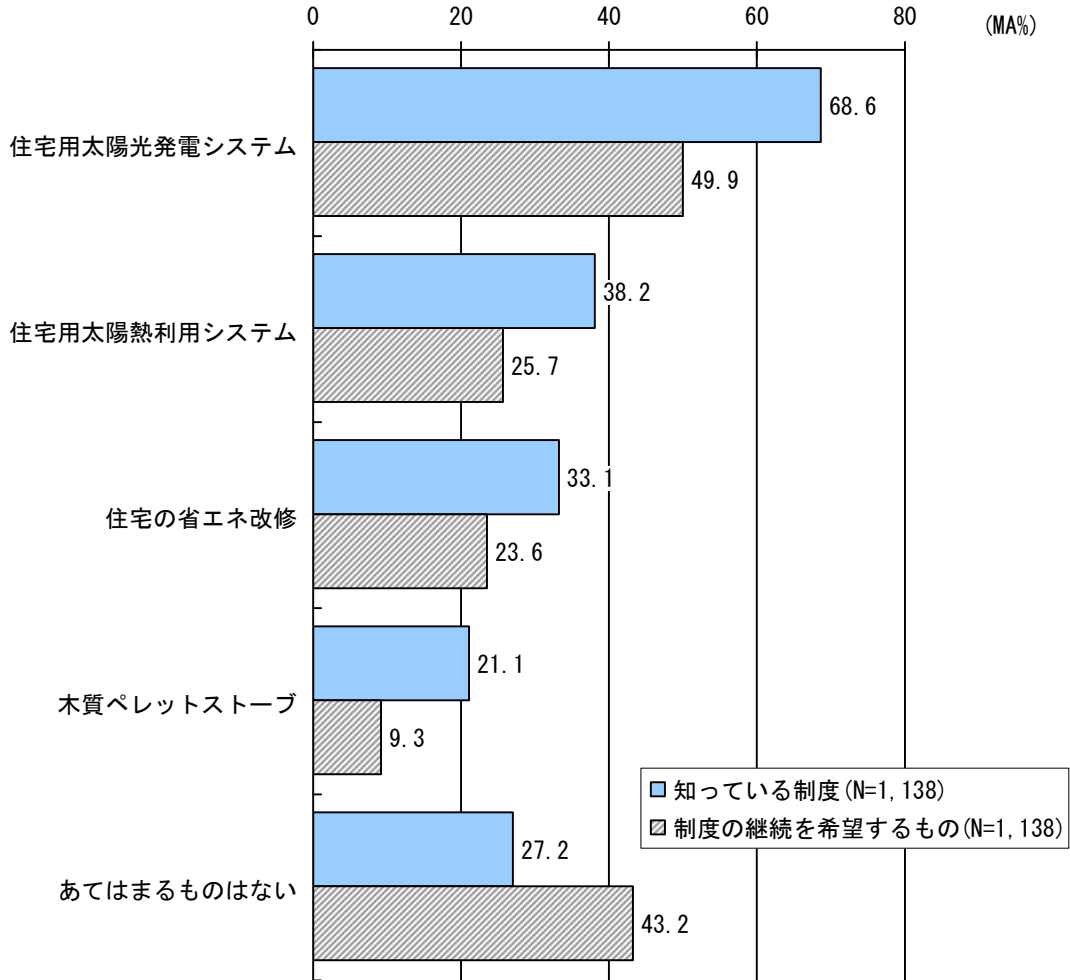
【図2-3-22 年代別 停車中のエンジン停止】



(4) 新エネルギー導入支援策について

問7 この制度をご存知ですか。また、平成24年度以降も継続を希望しますか。

【図2-4 新エネルギー導入支援策について】



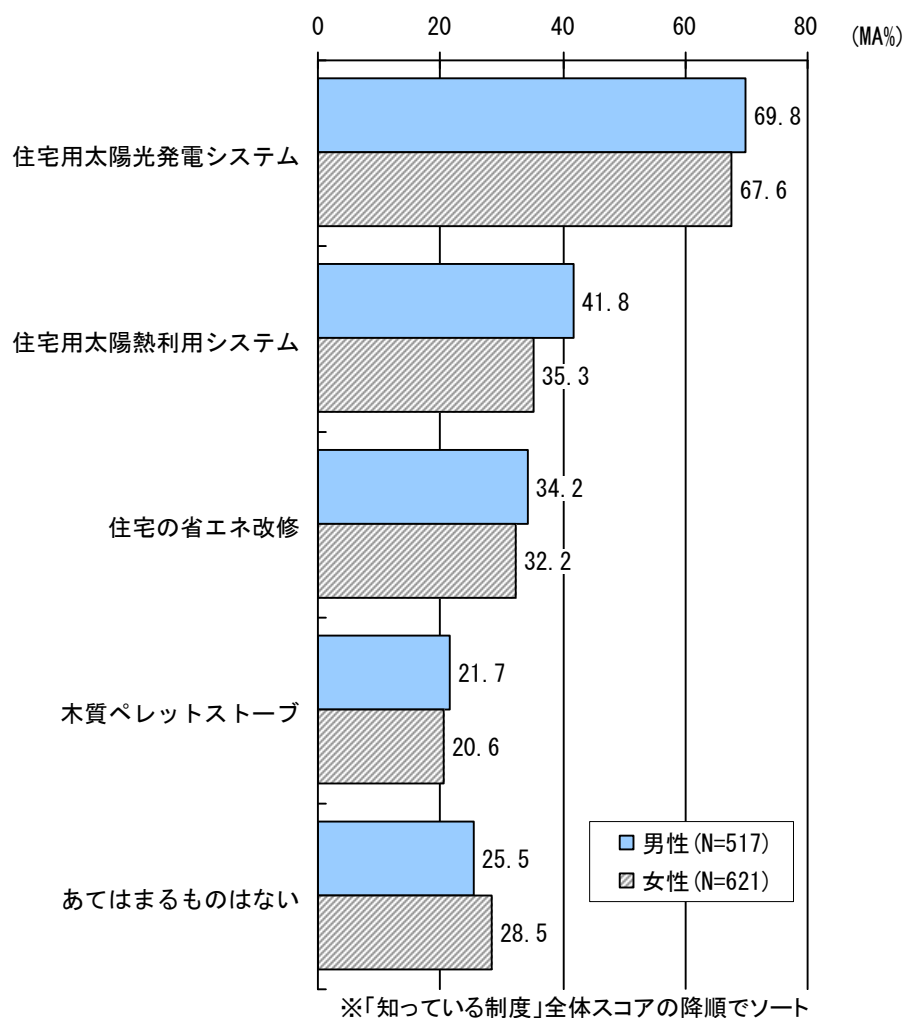
※「知っている制度」全体スコアの降順でソート

新エネルギー導入支援策について『知っている制度』をみると、「住宅用太陽光発電システム」が68.6%で最も高く、次いで「住宅用太陽熱利用システム」が38.2%、「住宅の省エネ改修」が33.1%、「木質ペレットストーブ」が21.1%の順となっている。

『制度の継続を希望するもの』をみると、「住宅用太陽光発電システム」が49.9%で最も高く、次いで「住宅用太陽熱利用システム」が25.7%、「住宅の省エネ改修」が23.6%、「木質ペレットストーブ」が9.3%の順となっている。一方、「あてはまるものはない」(43.2%)が4割以上を占めている。(図2-4)

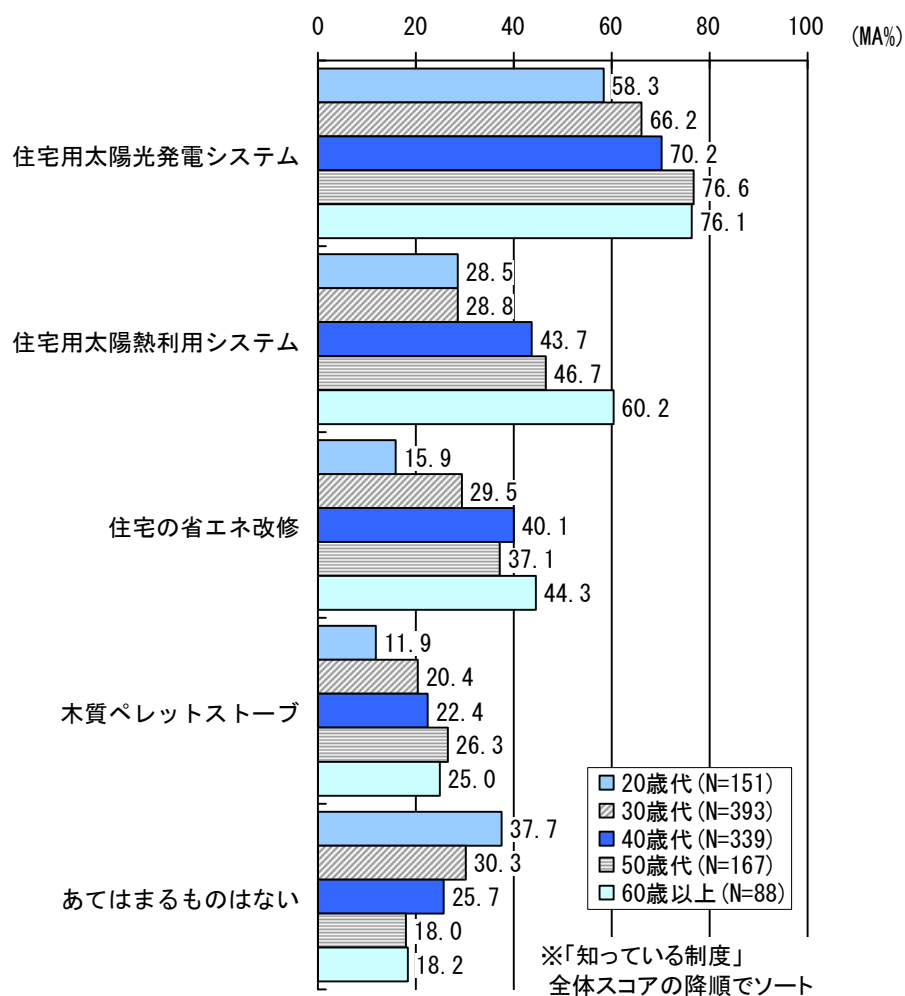
新エネルギー導入支援策について『知っている制度』を性別にみると、各制度の割合は女性に比べ男性のほうが高く、特に「住宅用太陽熱利用システム」の割合では 6.5 ポイント上回っている。(図 2-4-1)

【図2-4-1 性別 新エネルギー導入支援策について：知っている制度】



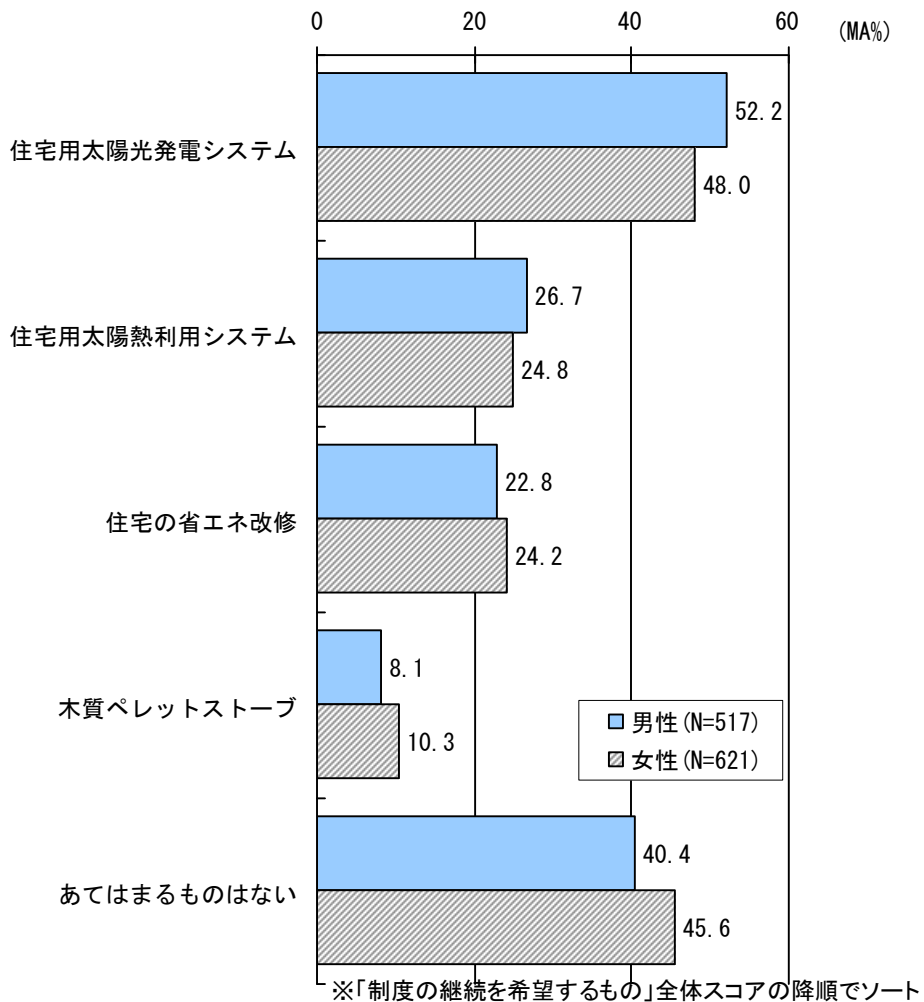
新エネルギー導入支援策について『知っている制度』を年代別にみると、全ての制度において、高年代ほど認知度が高い傾向がみられる。特に「住宅用太陽熱利用システム」の割合は、20歳代と30歳代では2割台、40歳代と50歳代では4割台、60歳以上では6割を超えており、年代差が顕著となっている。一方、「あてはまるものはない」の割合は、低年代ほど高い傾向がみられる。(図2-4-2)

【図2-4-2 年代 新エネルギー導入支援策について：知っている制度】



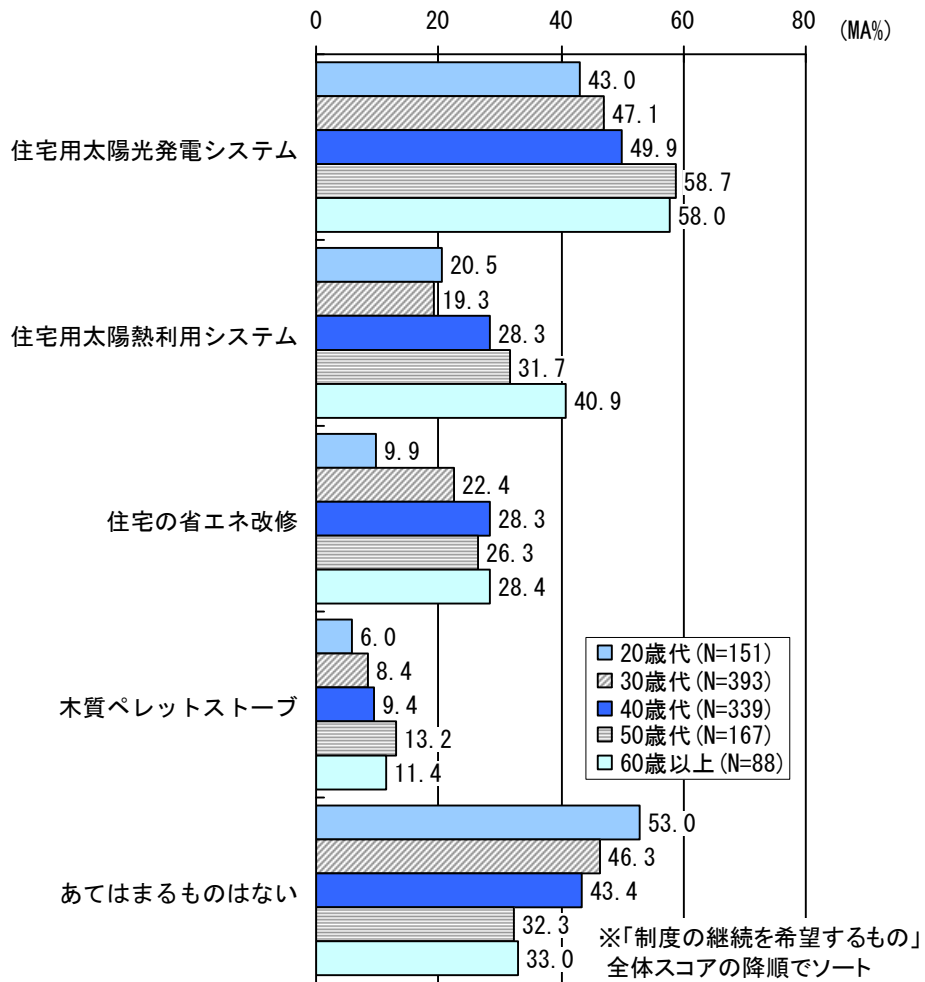
新エネルギー導入支援策について『制度の継続を希望するもの』を性別にみると、各制度の割合に顕著な性別差はみられない。一方、「あてはまるものはない」の割合は、男性（40.4%）に比べ女性（45.6%）のほうが5.2ポイント上回っている。（図2-4-3）

【図2-4-3 性別 新エネルギー導入支援策について：制度の継続を希望するもの】



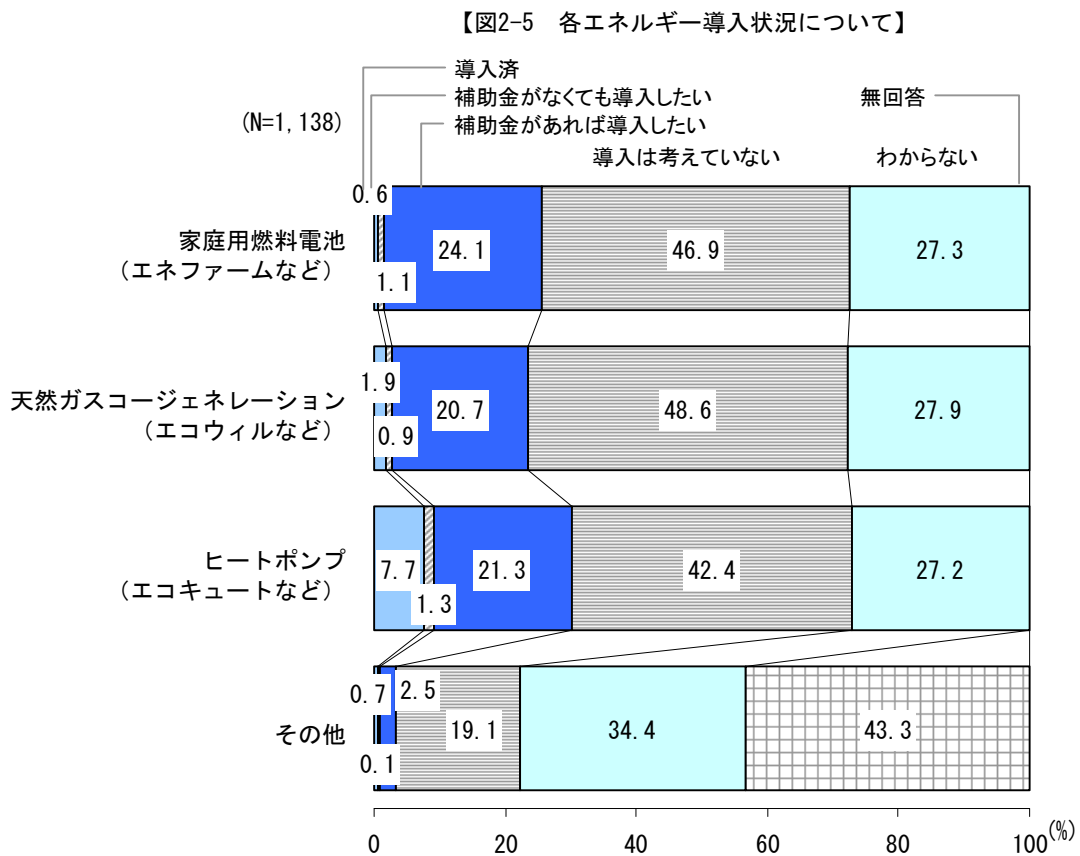
新エネルギー導入支援策について『制度の継続を希望するもの』を年代別にみると、各制度の割合は、高年代ほど高くなる傾向がみられる。特に「住宅用太陽光発電システム」では50歳代と60歳以上では6割近くと高く、「住宅用太陽熱利用システム」では60歳以上が4割を超えて高くなっている。また、住宅の省エネ改修では20歳代が9.9%と他の年代と比べ低い。一方、「あてはまるものはない」の割合は、低年代ほど高くなる傾向がみられる。(図2-4-4)

【図2-4-4 年代 新エネルギー導入支援策について：制度の継続を希望するもの】



(5) 各エネルギー導入状況について

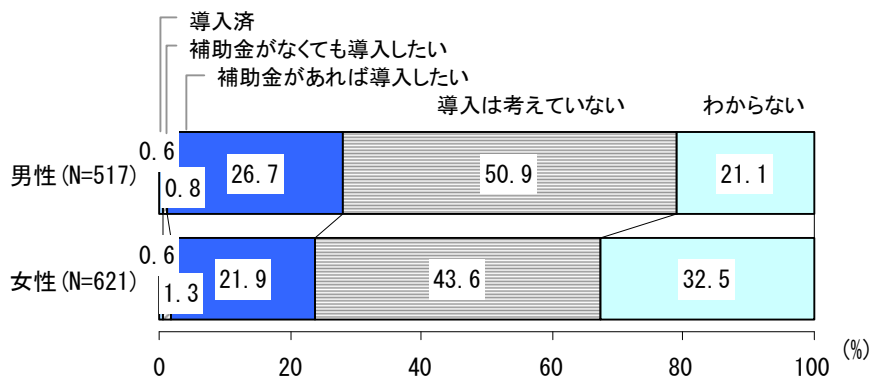
問 8 前問の選択肢以外の次のような機器に関して、ご自宅への導入について、該当するものをお選びください。



各エネルギー導入状況を見ると、各機器とも「導入は考えていない」が4割以上を占めて最も高く、次に高い「補助金があれば導入したい」はいずれも2割程度となっている。「導入済」の割合は、『ヒートポンプ』が7.7%で最も高く、次いで『天然ガスコージェネレーション』が1.9%、『家庭用燃料電池』が0.6%となっている。(図2-5)

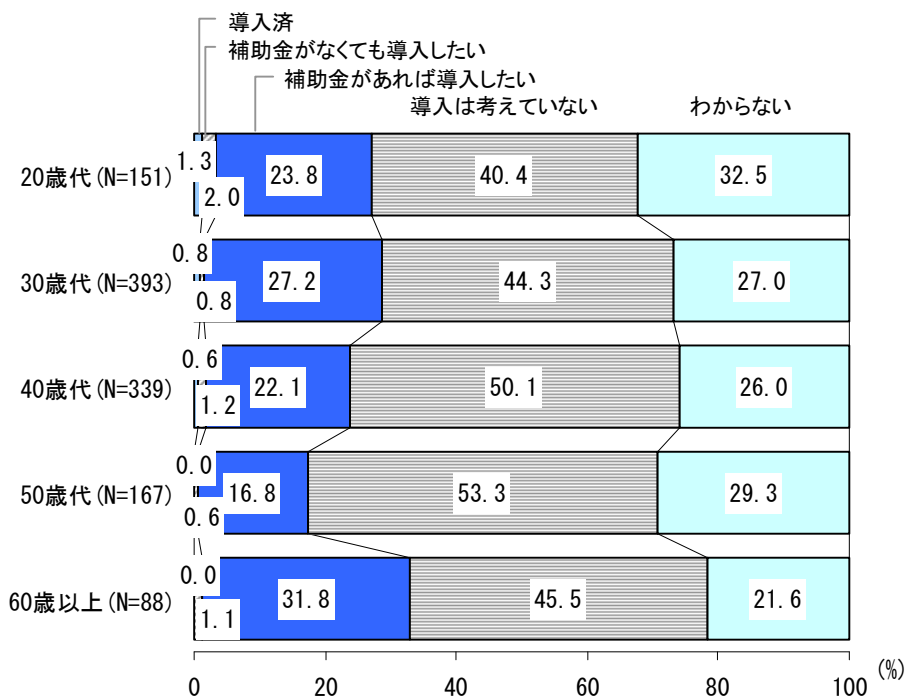
『家庭用燃料電池』の導入状況を性別にみると、男女とも「補助金があれば導入したい」の割合が2割台となっている。「導入は考えていない」の割合は、女性（43.6%）に比べ男性（50.9%）のほうが7.3ポイント上回っている。（図2-5-1）

【図2-5-1 性別 家庭用燃料電池】



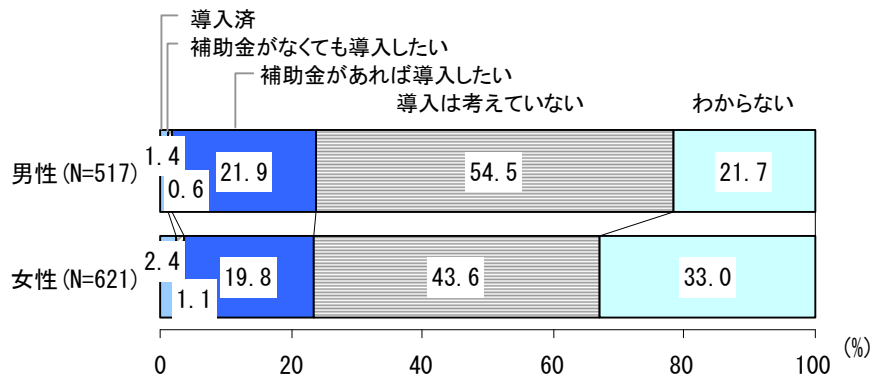
『家庭用燃料電池』の導入状況を年代別にみると、「補助金があれば導入したい」の割合は、60歳以上が31.8%で最も高く、20歳代から40歳代では2割台、50歳代では1割台と低くなっている。「導入は考えていない」の割合は、20歳代から30歳代および60歳以上では4割台、40歳代から50歳代では5割以上と各年代ともに最も高くなっている。（図2-5-2）

【図2-5-2 年代別 家庭用燃料電池】



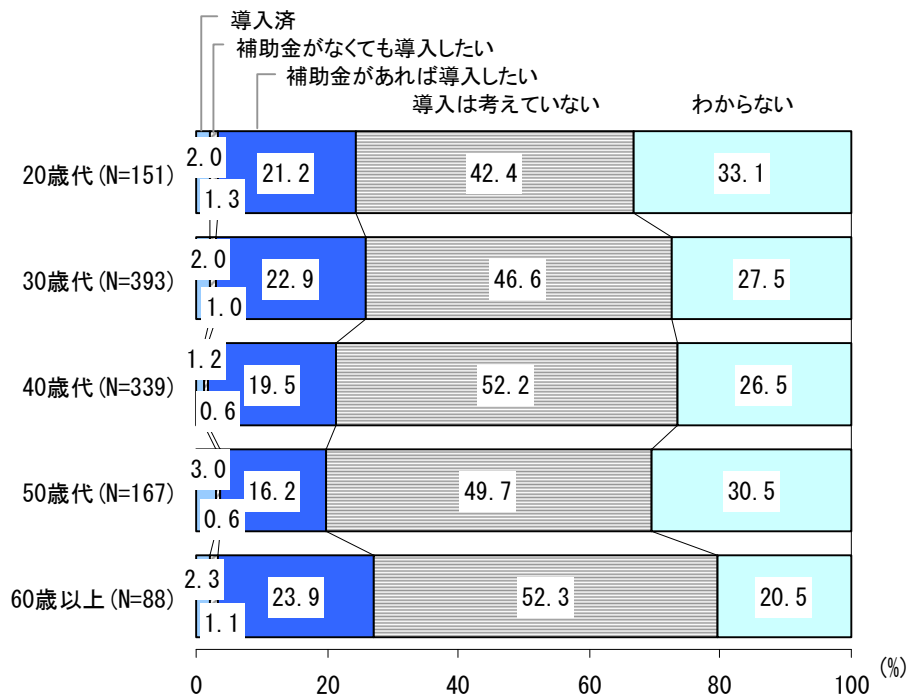
『天然ガスコージェネレーション』の導入状況を性別にみると、「補助金があれば導入したい」の割合は、男女とも 2 割程度を占めている（男性／21.9%、女性／19.8%）。「導入は考えていない」の割合は、女性（43.6%）に比べ男性（54.5%）のほうが 10.9 ポイント上回っている。（図 2-5-3）

【図2-5-3 性別 天然ガスコージェネレーション】



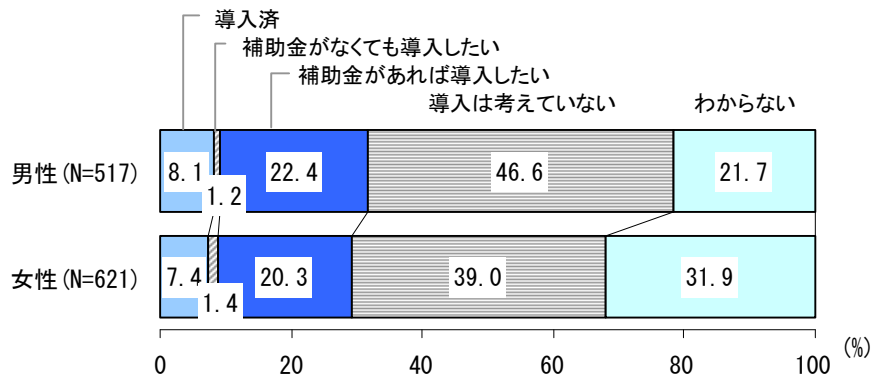
『天然ガスコージェネレーション』の導入状況を年代別にみると、「補助金があれば導入したい」の割合は、各年代とも 2 割前後となっている。「導入は考えていない」の割合は、20 歳代から 30 歳代では 4 割から 4 割半ば、40 歳代以上では 5 割前後となっている。（図 2-5-4）

【図2-5-4 年代別 天然ガスコージェネレーション】



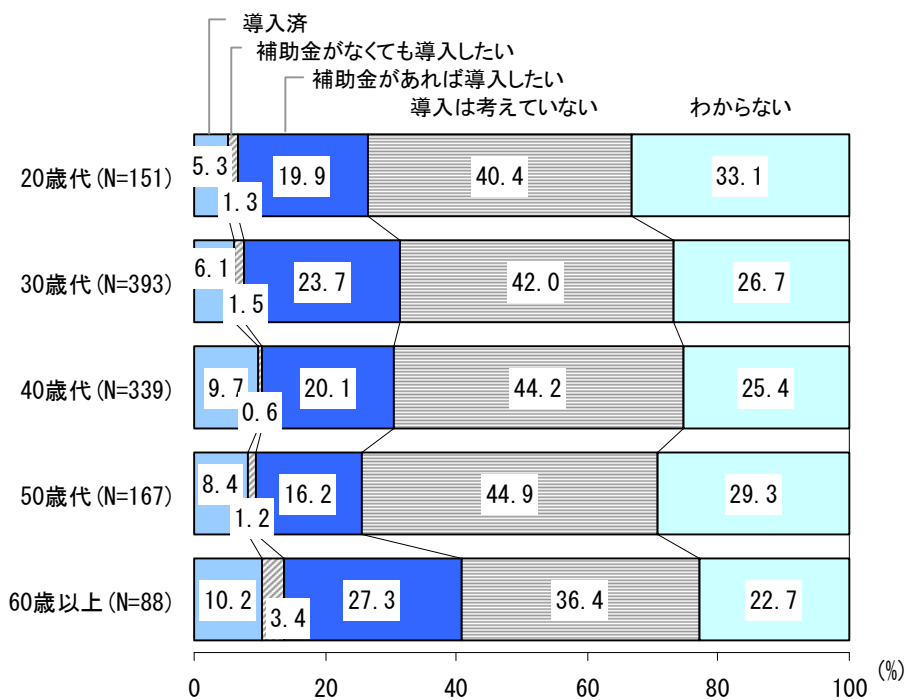
『ヒートポンプ』の導入状況を性別にみると、「導入済」の割合は、男性が8.1%、女性が7.4%となっている。「補助金があれば導入したい」の割合は、男女とも2割程度となっている。「導入は考えていない」の割合は、女性(39.0%)に比べ男性(46.6%)のほうが7.6ポイント上回っている。(図2-5-5)

【図2-5-5 性別 ヒートポンプ】



『ヒートポンプ』の導入状況を年代別にみると、年代が高くなるほど「導入済」の割合が高くなる傾向がみられ、60歳以上が10.2%で最も高くなっている。「補助金があれば導入したい」の割合は、20歳代から50歳代までは2割前後となっており、60歳以上では27.3%と他の年代と比べてやや高くなっている。「導入は考えていない」の割合は、20歳代から50歳代までは4割台、60歳以上では3割台となっている。(図2-5-6)

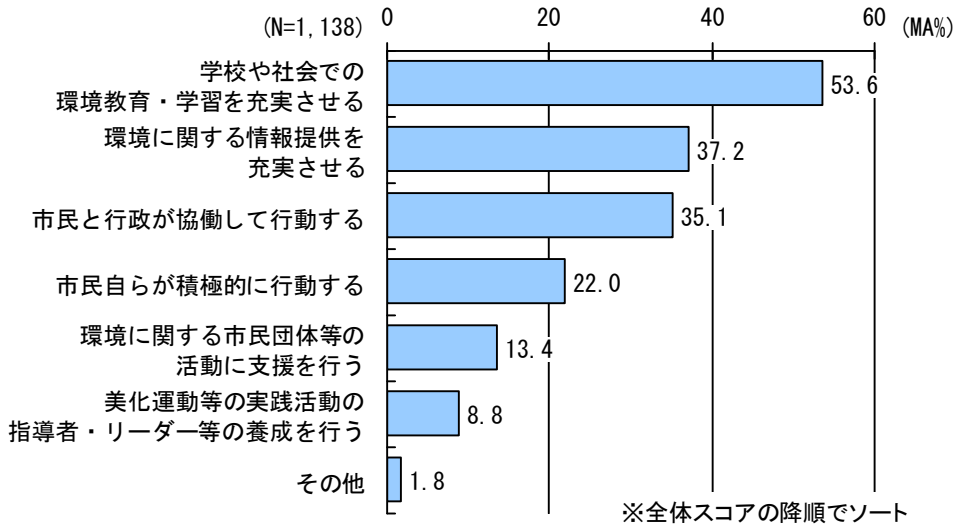
【図2-5-6 年代別 ヒートポンプ】



(6) 環境基本計画実現のために必要なこと

問 9 高槻市の環境基本計画では、「市民一人ひとりがエコスタッフ」「健康な生活環境の保全」「人と自然の共生」「快適な都市環境の創造」「飽食の社会との訣別」「地域からの環境負荷低減の取り組み」の6つの環境目標像がありますが、これらを実現するためには、どのようなことが必要と思いますか。

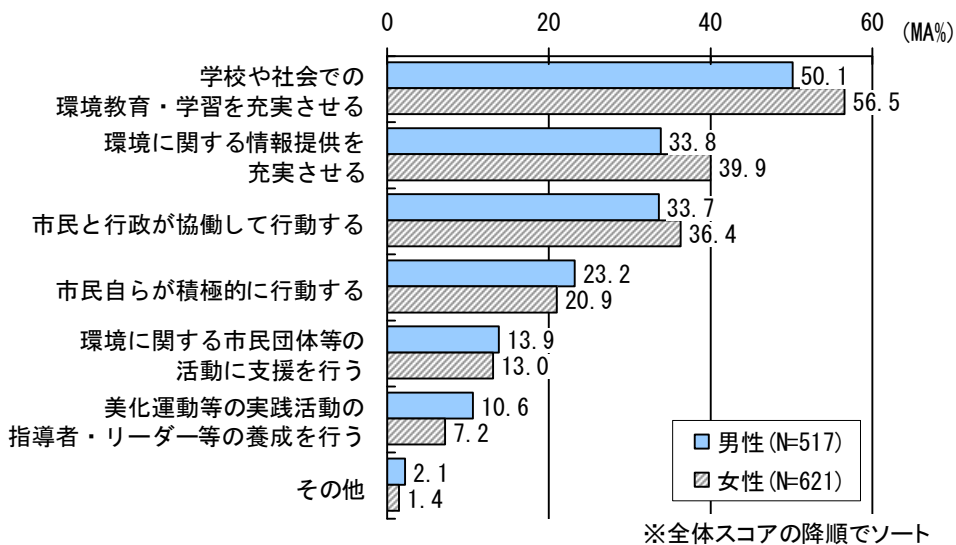
【図2-6 環境基本計画実現のために必要なこと】



環境基本計画実現のために必要なことをみると、「学校や社会での環境教育・学習を充実させる」が53.6%と最も高く、次いで「環境に関する情報提供を充実させる」が37.2%、「市民と行政が協働して行動する」が35.1%と続いている。(図2-6)

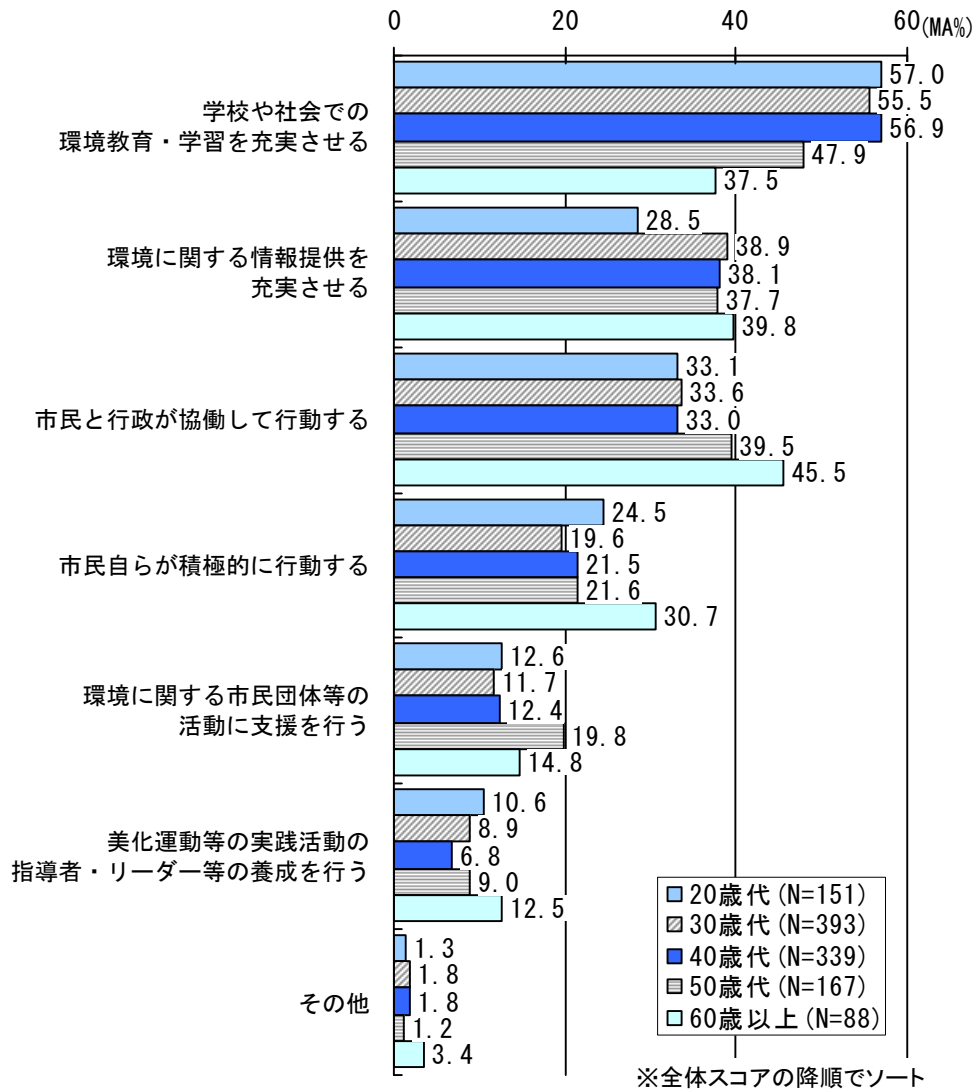
環境基本計画実現のために必要なことを性別にみると、「学校や社会での環境教育・学習を充実させる」では、男性(50.1%)に比べ女性(56.5%)のほうが6.4ポイント、「環境に関する情報提供を充実させる」では、男性(33.8%)に比べ女性(39.9%)のほうが6.1ポイント、「市民と行政が協働して行動する」では、男性(33.7%)に比べ女性(36.4%)のほうが2.7ポイントそれぞれ上回っている。(図2-6-1)

【図2-6-1 性別 環境基本計画実現のために必要なこと】



環境基本計画実現のために必要なことを年代別にみると、「学校や社会での環境教育・学習を充実させる」の割合は、20歳代から40歳代までは5割台、50歳代では4割台、60歳以上では3割台と、50歳を超えると割合が低くなる傾向がみられる。「環境に関する情報提供を充実させる」の割合は、30歳以上では4割弱を占めているのに対して20歳代では28.5%と他の年代と比べて低くなっている。「市民と行政が協働して行動する」「市民自らが積極的に行動する」の割合は、60歳以上が45.5%と他の年代と比べて高くなっている。(図2-6-2)

【図2-6-2 年代別 環境基本計画実現のために必要なこと】

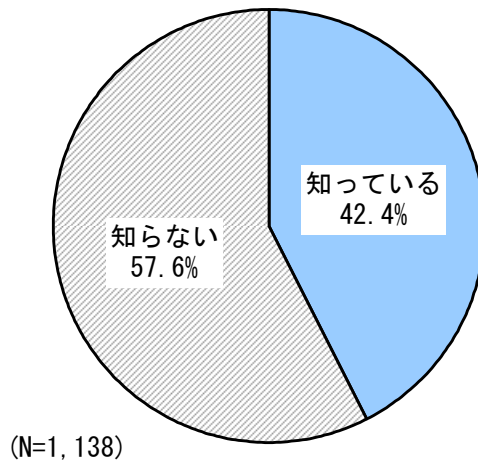


(7) 「緑のカーテン大作戦」の認知度

高槻市は、ヒートアイランド対策及び地球温暖化対策として、ツル性植物を窓の外に繁らせる「緑のカーテン大作戦」に取り組んでおり、公共施設での設置や、市民モニターへのゴーヤの苗の配布などを行っています。

問 10 この取組みをご存知ですか。

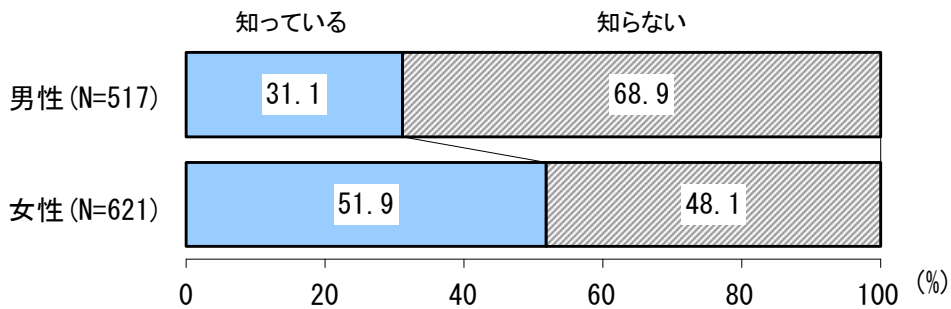
【図2-7 「緑のカーテン大作戦」の認知度】



「緑のカーテン大作戦」の認知度をみると、「知っている」が 42.4%で、非認知が過半数となっている。(図 2-7)

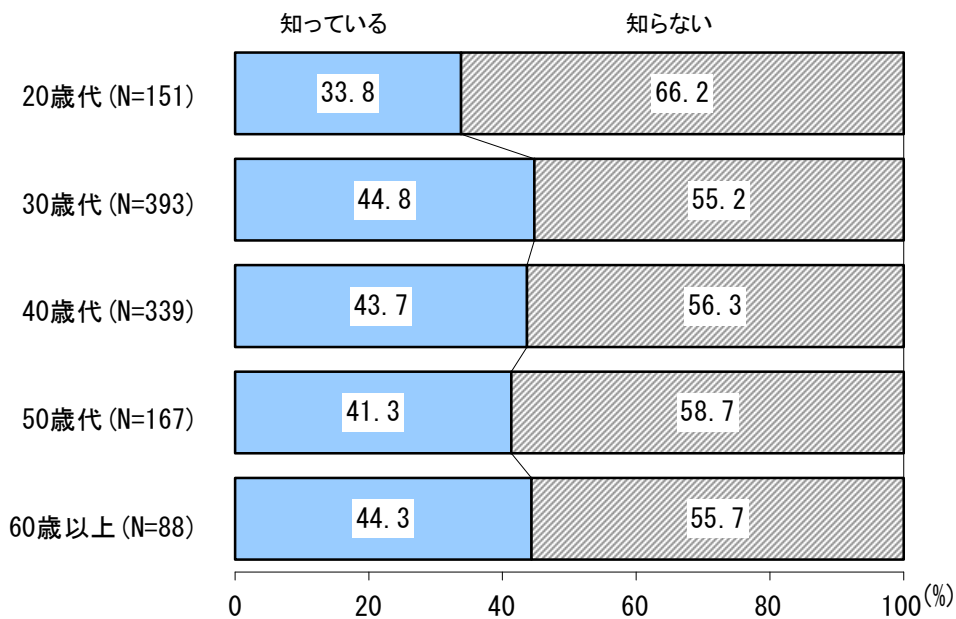
「緑のカーテン大作戦」の認知度を性別にみると、「知っている」の割合は、男性 (31.1%) に比べ女性 (51.9%) のほうが 20.8 ポイント上回っている。(図 2-7-1)

【図2-7-1 性別 「緑のカーテン大作戦」の認知度】



「緑のカーテン大作戦」の認知度を年代別にみると、「知っている」の割合は、30歳以上の年代では4割台（30歳代／44.8%、40歳代／43.7%、50歳代／41.3%、60歳以上／44.3%）に対して、20歳代では33.8%と他の年代と比べて低くなっている。（図2-7-2）

【図2-7-2 年代別 「緑のカーテン大作戦」の認知度】

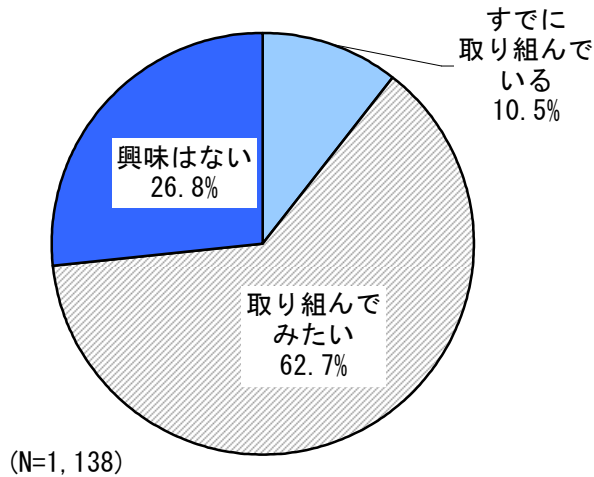


(8) 「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況

高槻市は、ヒートアイランド対策及び地球温暖化対策として、ツル性植物を窓の外に繁らせる「緑のカーテン大作戦」に取り組んでおり、公共施設での設置や、市民モニターへのゴーヤの苗の配布などを行っています。

問 11 ご自宅での取り組み状況はいかがですか。

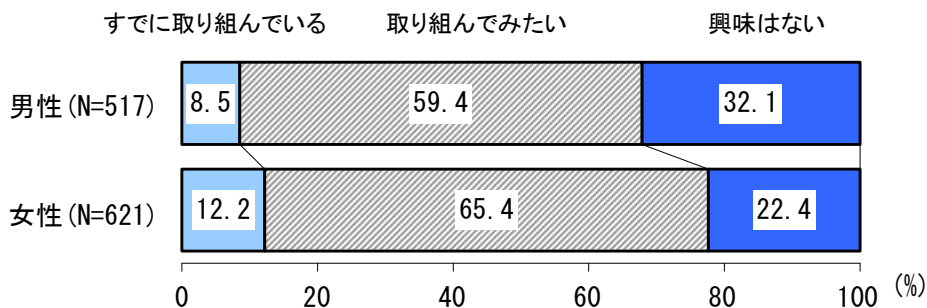
【図2-8 「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況】



「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況を見ると、「取り組んでみたい」が 62.7%と最も高く、「すでに取り組んでいる」が 10.5%となっている。また、「興味はない」は 26.8%となっている。(図 2-8)

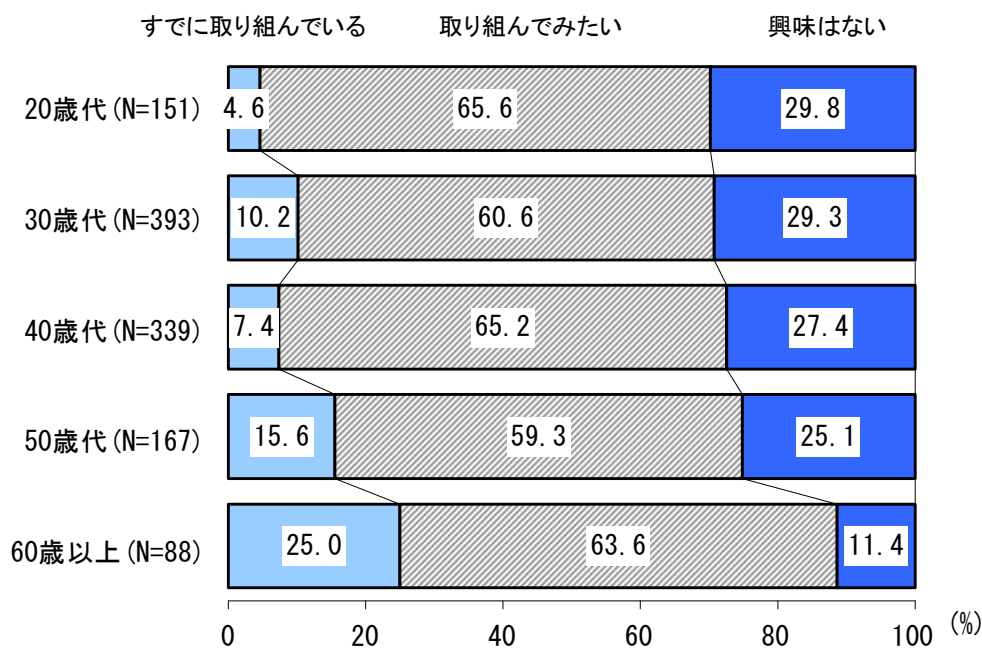
「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況を性別にみると、「すでに取り組んでいる」の割合は、男性 (8.5%) に比べ女性 (12.2%) のほうが 3.7 ポイント、「取り組んでみたい」の割合は、男性 (59.4%) に比べ女性 (65.4%) のほうが 6.0 ポイントそれぞれ上回っている。一方、「興味はない」の割合は、女性 (22.4%) に比べ男性 (32.1%) のほうが 9.7 ポイント上回っている。(図 2-8-1)

【図2-8-1 性別 「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況】



「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況を年代別にみると、「すでに取り組んでいる」の割合は、高年代ほど高くなる傾向がみられ、60歳以上では25.0%となっている。一方、「興味はない」の割合は、高年代ほど低くなる傾向がみられ、20歳代から50歳代までは2割台に対して、60歳以上では約1割と低くなっている。(図2-8-2)

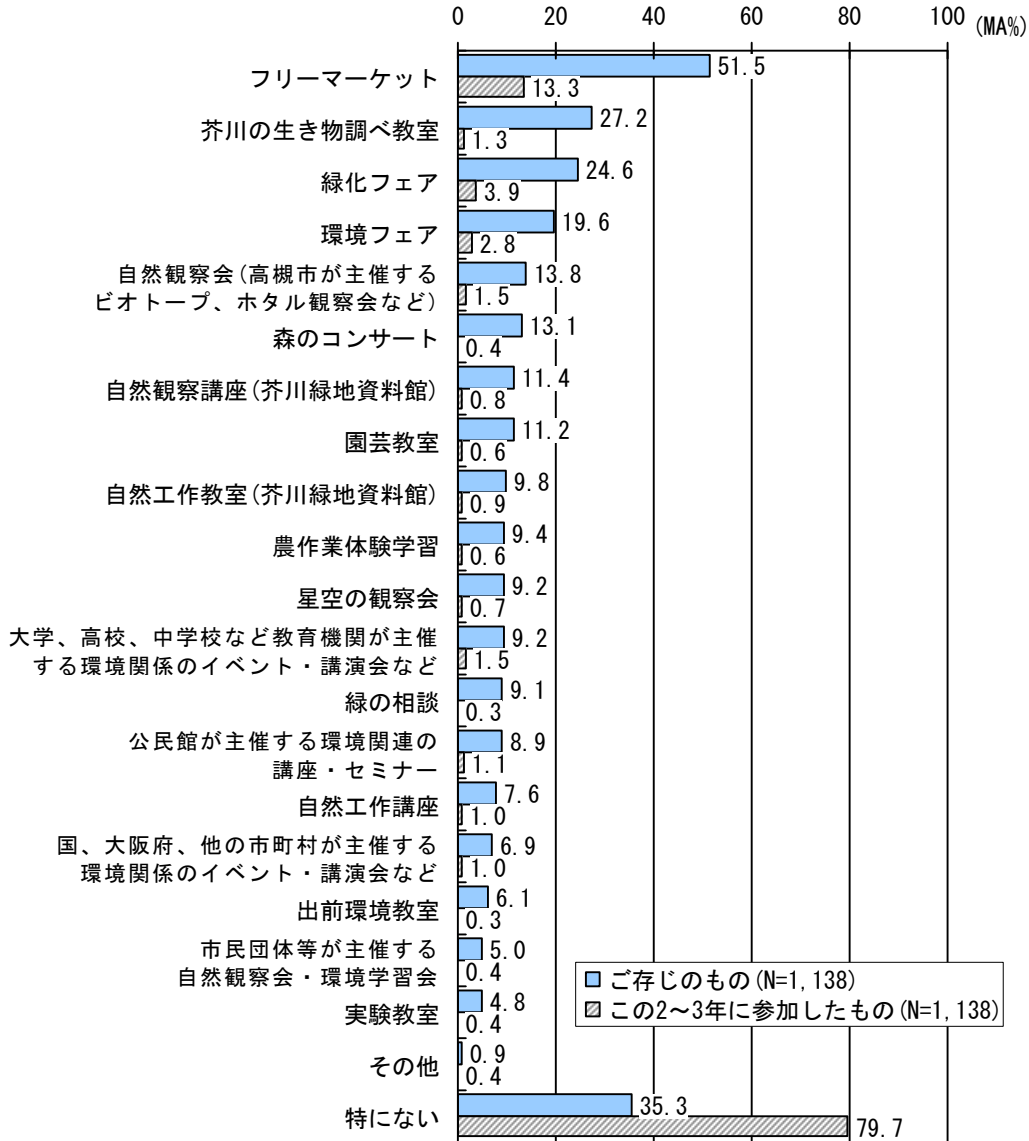
【図2-8-2 年代別 「緑のカーテン大作戦」の自宅での取り組み状況】



(9) 環境に関連するイベントや教室の認知度

問 12 環境に関連するイベントや講座、教室をあげています。
 この中で、あなたが、(1) ご存知のもの、また、
 (2) この2~3年くらいの間に参加したことがあるものを選んでください。

【図2-9 環境に関連するイベントや教室の認知度】



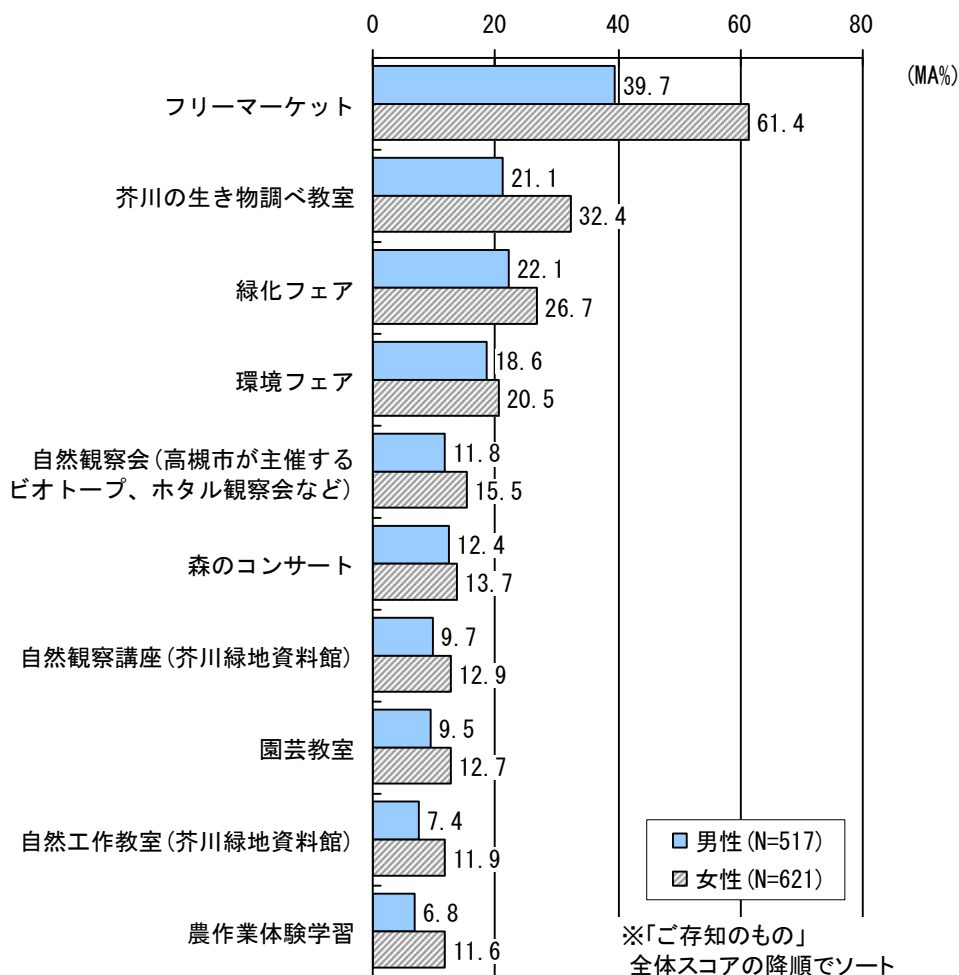
※「ご存知のもの」全体スコアの降順でソート

環境に関連するイベントや教室について『ご存知のもの』をみると、「フリーマーケット」が 51.5%で最も高く、次いで「芥川の生き物調べ教室」が 27.2%、「緑化フェア」が 24.6%、「環境フェア」が 19.6%、「自然観察会」が 13.8%と続いている。

『この 2~3 年に参加したもの』をみると、「フリーマーケット」が 13.3%で最も高く、次いで「緑化フェア」3.9%、「環境フェア」が 2.8%と続いている。一方、「特にない」は約 8 割と高くなっている。(図 2-9)

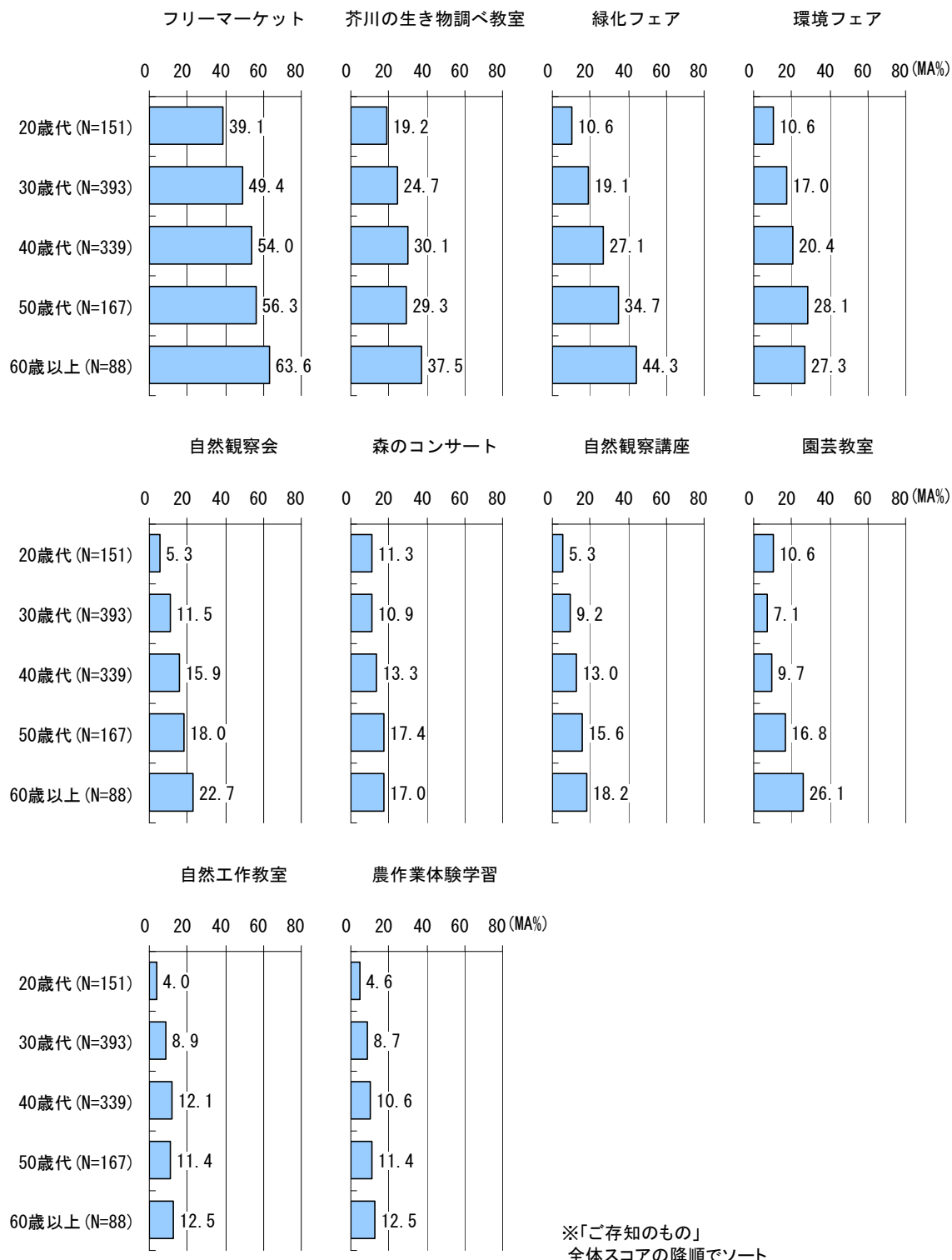
環境に関連するイベントや教室の認知度について『ご存知のもの』上位 10 項目を性別にみると、総じて男性よりも女性の割合が高く、特に「フリーマーケット」の割合では、男性（39.7%）に比べ女性（61.4%）のほうが 21.7 ポイント上回っている。（図 2-9-1）

【図2-9-1 性別 環境に関連するイベントや教室の認知度：ご存知のもの（上位10項目）】



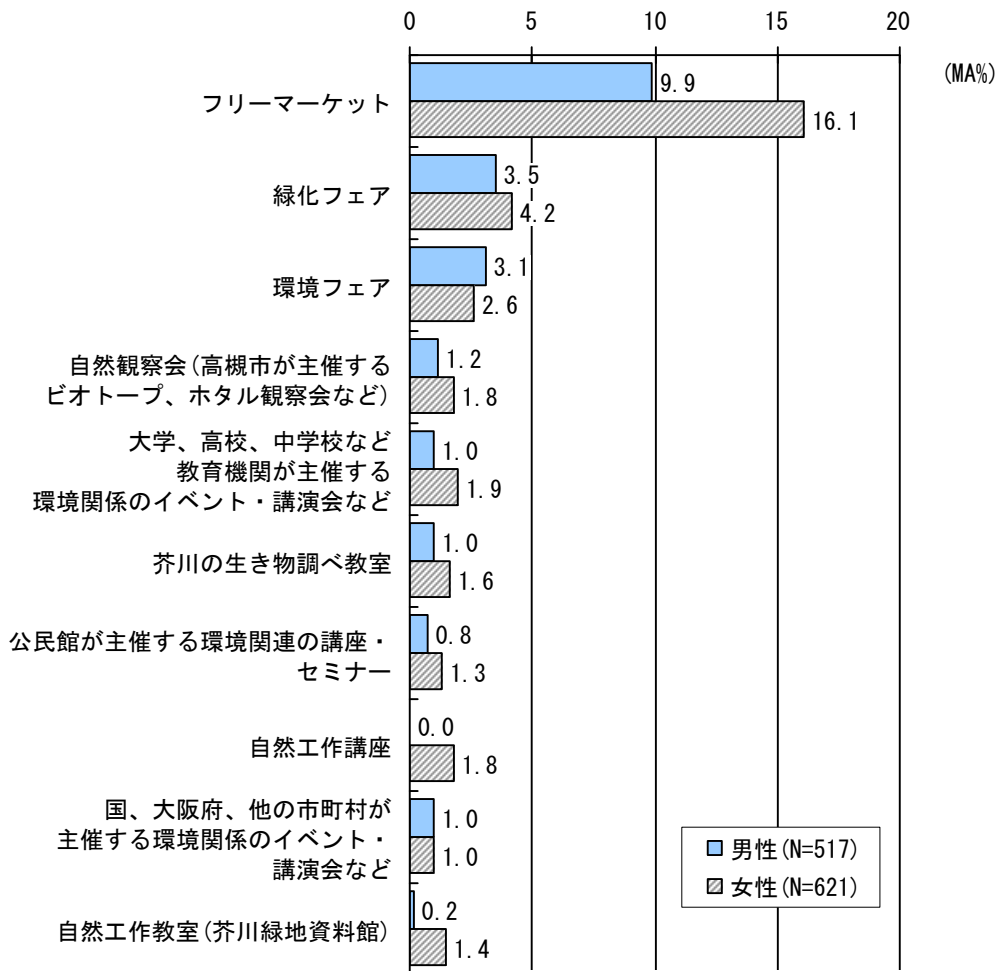
環境に関連するイベントや教室の認知度について『ご存知のもの』上位 10 項目を年代別にみると、全体的に年代が高いほど割合が高くなる傾向がみられ、特に「緑化フェア」では 20 歳代（10.6%）に比べ 60 歳以上（44.3%）のほうが 33.7 ポイント上回っており年代差が顕著となっている。（図 2-9-2）

【図2-9-2 年代別 環境に関連するイベントや教室の認知度：ご存知のもの（上位10項目）】



環境に関連するイベントや教室の認知度について『ここ 2～3 年に参加したもの』上位 10 項目を性別にみると、総じて男性よりも女性の割合が高くなっており、特に「フリーマーケット」の割合は、男性（9.9%）に比べ女性（16.1%）のほうが 6.2 ポイント上回っている。（図 2-9-3）

【図2-9-3 性別 環境に関連するイベントや教室の認知度
：この2～3年に参加したもの（上位10項目）】



※「この2～3年に参加したもの」全体スコアの降順でソート

環境に関連するイベントや教室の認知度について『ここ2~3年に参加したもの』上位10項目を年代別にみると、「フリーマーケット」の割合は、50歳代以下の年代は1割台に対して60歳以上では6.8%と他の年代と比べて低くなっている。一方、「緑化フェア」の割合は、50歳代以下は1割未満に対して60歳以上では13.6%と他の年代と比べて高くなっている。(図2-9-4)

【図2-9-4 年代別 環境に関連するイベントや教室の認知度
: この2~3年に参加したもの(上位10項目)】

